

709.2

K.41

K3

G200



U0032499

10. 5

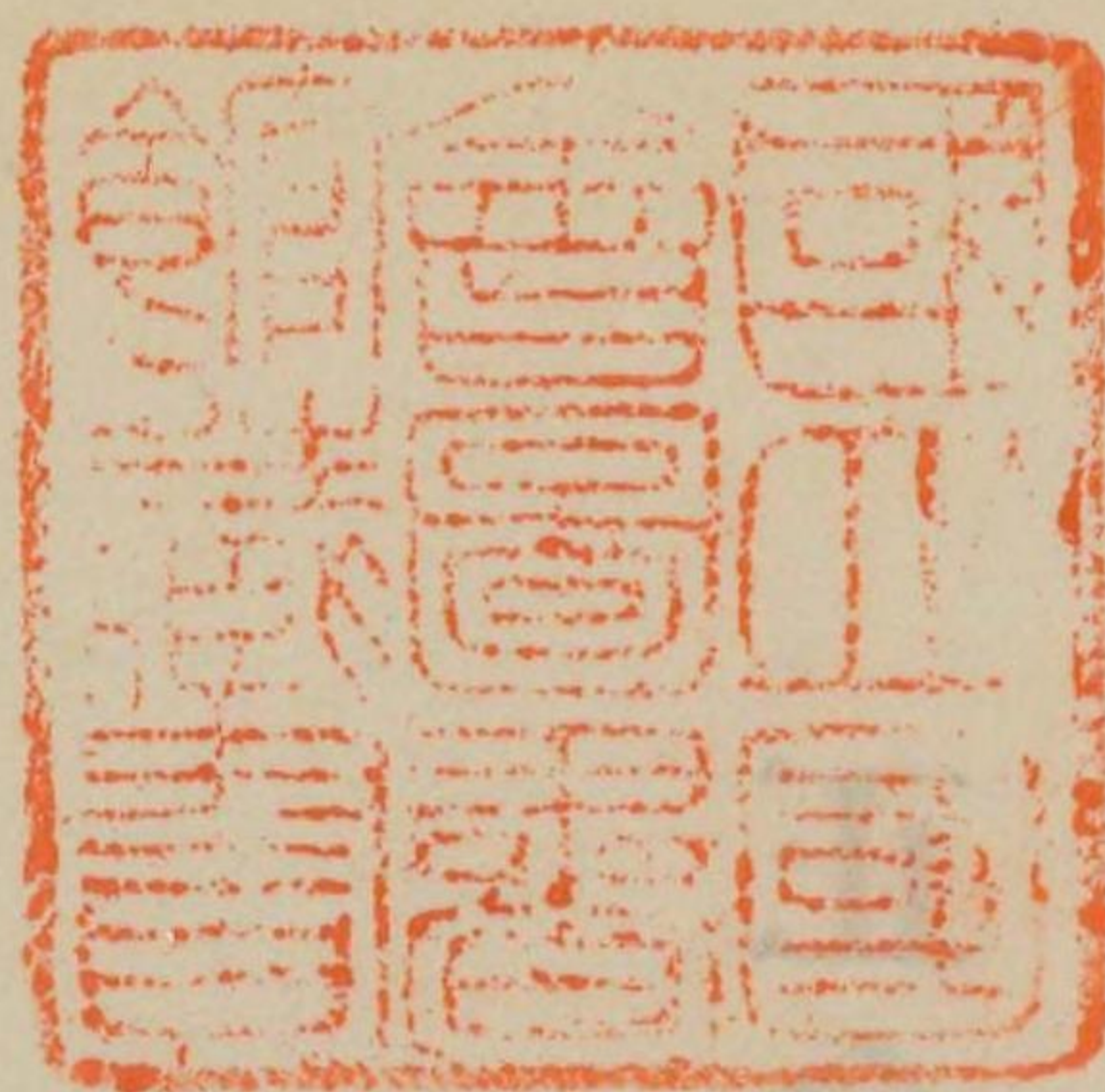
正倉院棚別目錄

~~709.2~~  
~~Ku41~~

正倉院棚別目錄



00136 0



K3		G200	



U 32499

### 凡例

- 一、この目録は寶庫に陳列する寶物を列記し、略解を付けたものである。
- 一、寶物の陳列には、時によつて、出入や移動があることを承知せられたい。
- 一、寶物の名稱は、たいてい従來の稱呼に従つたが、少しく變更したものもある。
- 一、寶物の名稱銘文の引用その他の文字は、特別のものを除いて古體を避けた。
- 一、寶物の名稱その他特殊の文字には、發音式振假名を付けた。
- 一、寶物の名稱上の洋數字は寶物の題箋番號、また下方の割弧内番號は正倉院事務用である。
- 一、卷首に正倉院小引一篇を配し、卷末に年表を添えて參考に供することとした。

昭和二十六年十月

正倉院小引



上代の中央地方の官衙や大寺には、大切な物を納れる正倉が設けられていた。東大寺にも大佛殿の後方講堂を繞ぐる三面僧房の北に當つて正倉が置かれて、

その一廓が正倉院と呼ばれた。正倉院寶庫はその倉の一である。

寶庫は南北一〇九尺、東西三十一尺、高さ三十八尺、床下九尺、四阿造單層の豪壯な木造瓦葺である。建物は三室に仕切られ、東に向つて入口が設けてある。北から順に北倉、中倉、南倉という。兩端の倉は校倉造り、中央は南北兩倉の壁を利用しながら東西兩面が板倉式になつてゐる。三倉とも内部は二階になつてゐるが、屋根裏は三倉通しである。

二

天平勝寶八歲(七五六)六月二十一日、皇太后光明皇后は聖武天皇の七々忌に相

當するこの日を以て、先帝の御遺物を中心に、數々の珍寶を大佛に奉獻せられた。またこの日藥六十種も同じく奉獻された。これが正倉院寶物の濫觴となつた。この後二年ほどの間に、なお數度の補足的な奉獻がある。

村上天皇の天曆四年(九五〇)東大寺羅索院の倉が甚だ損傷したので、その納物を南倉に移納して綱封とした。鳥羽天皇の永久四年、そのうちの重物が勅封藏(北倉、中倉)に移された。

## 三

寶庫がいつから勅封となつたかは詳かでないが、寶庫の開閉は當初から頗る嚴重であつて、勅許を必要とし、事實は勅封である。

都が平安京に遷る頃から寶庫の曝涼と開檢、つまり通風と點檢とが始められたが、その都度勅使が立てられている。

しかし寶庫の納物は出し入れしないというものではなく、必要があれば出藏し、了れば返納した。中には入れ替えもし、出し切りにもなつた。中でも藥は奉獻の時から病苦の者のために用いることが許されていて、頻りに出藏せられて

いる。

## 四

正倉院寶庫の納物は由緒から見れば(一)聖武天皇御遺愛の品を中心として光明皇后が奉獻せられた珍寶と藥、(二)東大寺行幸などの時に宮中から奉獻された珍財、(三)大佛開眼會、聖武天皇后宮子及び聖武天皇御一周忌などの齋會に使用した品々に大別できる。

用途から見れば(一)袈裟・樂裝束などの衣類、(二)皿・鉢・匙などの食器類、(三)鏡・屏風・厨子・床などの調度の類、(四)琴・琵琶・尺八・鼓・面などの樂器・樂具、(五)柄香爐・幡・鉢などの佛具、(六)筆・墨・硯・紙などの文房具、(七)弓箭・刀・鉾などの武器の類、其の他に類別でき

る。これを技術の面から見れば、彫刻・繪畫・工藝の各般にわたり、金工・木工・漆藝・陶藝・ガラス・染織を網羅する。技法は例を漆藝に採れば、特殊なものに乾漆や平脫があり、染織に錦・綾・羅・帛・純布(麻)など織法による別、染法による夾纈・絞纈・藕纈の別がある。また材質を金屬に見れば、金・銀・銅・鐵の外に白銅・青銅・黄銅・赤銅・佐波理など

の合金があり、金属の外には硬玉、碧玉、琥、碧水、精、真珠、珊瑚、象牙、犀角、檳榔が工藝品を豊かに飾っている。

また光明皇后の奉獻の物にはそれぞれ目録が添っている。いわゆる獻物帳である。時々、曝涼開檢納物の出入には記録を作つて一通が倉内に留められ、曝涼帳、出入帳と呼ばれている。その外、大寶二年の戸籍をはじめ凡そ八百卷の古文書がある。

四

五

寶庫の品々は櫃に納めて傳世せられ、曝涼開檢出藏などの外は開かれることは、まずなかつたが、平安時代の末頃から上皇をはじめ貴顯の御覽、拜觀があるようになり、近世に至つて文運の進むに伴つて調査や整理が行われ、次第に正倉院の價値が喧傳された。ついに明治十五年庫内に棚を設けて今の姿の陳列を行い、翌年、毎年曝涼の制を立て、また資格を定めて就いて見せしめ、爾來今に至つて

いる。

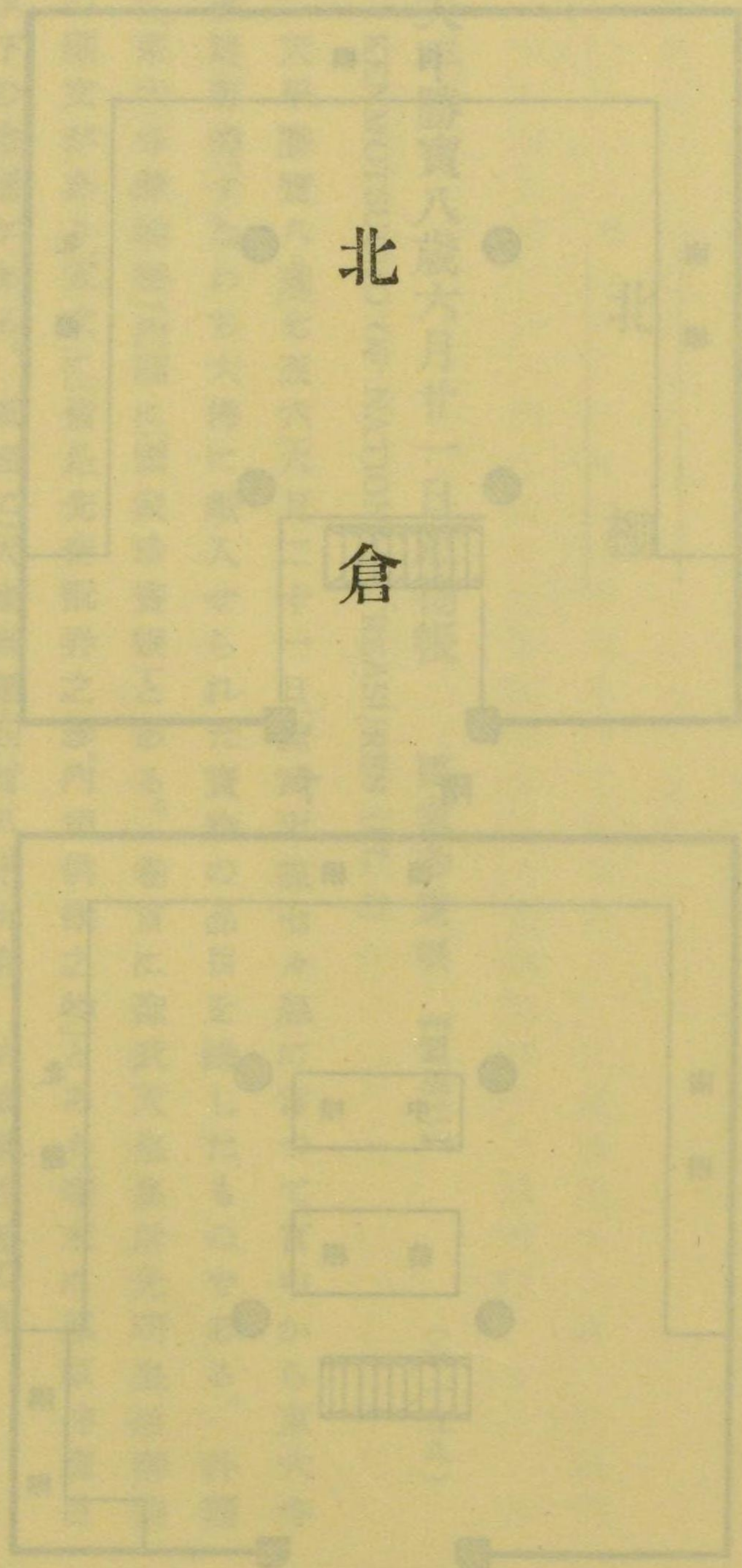
庫内の陳列は大體、北倉は光明皇后奉獻の品を中心とし、中倉はそれ以外の宮中奉獻の品、臣下の獻物が多く、また武器がある。南倉には大佛開眼會、聖武天皇御一周忌齋會の用具が中心となつている。

六

正倉院の特質は、ものが古いこと、由緒が正しいこと、傳來の正しい傳世品であること、優秀品であること、多様性がある上に量が多いこと、保存が良いことにあるのは言うまでもない。しかし正倉院の特質として特に言いたいことは、その時代の明確性である。明白な日付をもつ五種の獻物帳がものと共に遺つていて、その詳細な特徴記載によつて、その品はこれと押さえることができるのである。また獻物帳以外のものにも付札により、あるいはそのものに書きつけたり、彫りつけた銘文によつて、獻納の日が分り、使用の時が明らかな品が甚だ尠くない。これは正倉院の學術的價値を決定するものである。それと同時にこれは正倉院が正倉院以外のもの、の時代判定の基準とされる所以である。

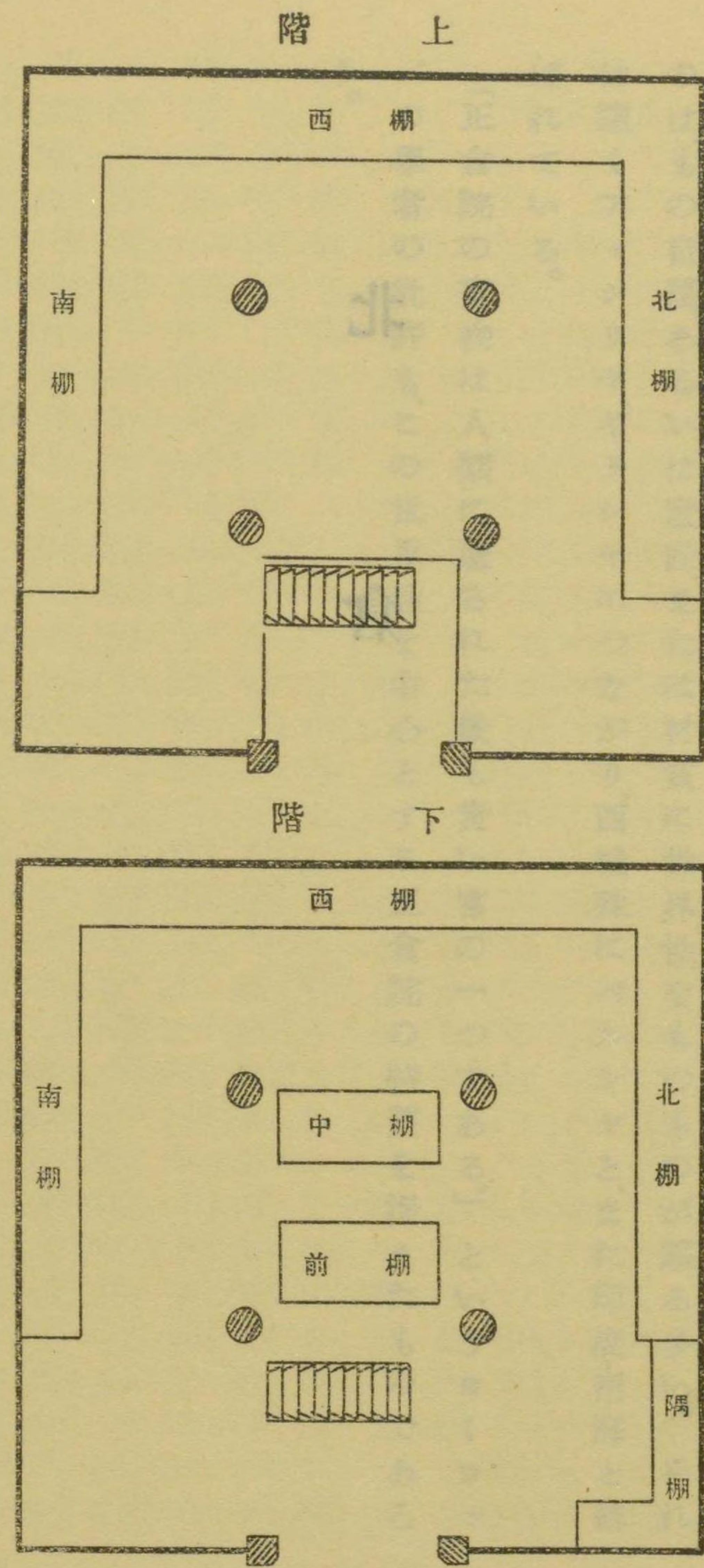
いまひとつ大書されてよい正倉院の特質は、その世界性である。盛唐の文化は世界性をもつと共に當時世界最高の文化を誇るものと云つてよいが、その文





化がそのまま凝結したところが正倉院であると言える。従つてこゝにあるものは、もの自体、あるいは意匠、または材質に世界性をもつものが頗る多い。それは遠くアッシリヤ、ギリシヤにつながり、西域殊にペルシヤと、また印度・南海と結ばれている。

「正倉院の寶物は人類に遺された最も貴い富の一つである。」というヨーロッパの學者の批評も、この世界性を中心とする正倉院の特質を捉えたものである。



北倉階上

北棚

(1) 天平勝寶八歲六月廿一日獻物帳

國家珍寶帳【圖版二】

(北一五八)

KENMOTSUCHO OF NATIONAL TREASURES (PL. 2)

天平勝寶八歲(七五六)六月二十一日、聖武天皇七々忌に當つて、宮中から東大寺  
 盧遮那佛、すなわち大佛に獻入せられた寶物の品目を録したものである。外題  
 に「東大寺獻物帳」内題に「國家珍寶帳」とある。卷首に聖武天皇皇后光明皇后御製  
 の願文があり、末文に「皆是先帝翫弄之珍、内司供擬之物」とあり、卷末に藤原仲麻呂  
 以下の自署がある。紙面に「天皇御璽」四百八十九顆。白麻紙、白檀の軸。

北倉階上

(2) 天平勝寶八歳六月廿一日獻物帳

種々藥帳

(北一五八)

KENMOTSUCHO OF MEDICINES

前者と同時に獻入せられた藥の品目を録したものであるが、末文に「若有緣病苦可用者、並知僧綱後聽充用」とあることは、まことに意義が深い。仲麻呂以下の自署前に同じく、天皇御璽四十五顆。白麻紙、白檀の軸。

(3) 天平勝寶八歳七月廿六日獻物帳

屏風花氈帳

(北一五九)

KENMOTSUCHO OF FOLDING SCREENS AND PATTERNED RUGS

歐陽詢眞蹟屏風、王羲之諸帖臨書屏風及び花氈、繡線鞋等の獻物帳である。外題に「東大寺獻物帳」とあり、仲麻呂以下の自署がある。「天皇御璽十八顆。綠麻紙、桑の軸。」

(4) 天平寶字二年六月一日獻物帳

大小王眞蹟帳

(北一六〇)

KENMOTSUCHO OF WANG'S CALLIGRAPHS

王羲之、王獻之の眞蹟廿卷の獻物帳で、仲麻呂の自署がある。「天皇御璽十七顆。碧麻紙、綠瑠璃がらすの軸。この書卷は傳存しない。」

(5) 天平寶字二年十月一日獻物帳

藤原公眞蹟屏風帳

(北一六一)

KENMOTSUCHO OF PRINCE FUJIWARA'S AUTOGRAPH SCREEN

光明皇后の父、藤原不比等の眞蹟屏風の獻物帳で、願文に「右件屏風書者、是先考正一位太政大臣藤原公之眞蹟也、妾光明子之珍財、莫過於此」とある。「天皇御璽十五顆。白麻紙、碧瑠璃の軸。この屏風は傳存しない。」

(6) 延暦六年六月廿六日曝涼使解

(北一六二)

BAKURYOSHI-NO-GE, A REPORT OF THE OFFICIAL IN CHARGE OF THE AIRING ON JUNE 26, 787

延暦六年官命によつて寶物曝涼(風通し)の事に當つた有司が、點檢した品目を列舉して、曝涼の始末を上達したもの。外題に「珍財帳」とある。

(7) 延暦十二年六月十一日曝涼使解

(北一六三)

BAKURYOSHI-NO-GE: A REPORT OF THE OFFICIAL IN CHARGE OF THE AIRING ON JUNE 11, 793

外題に曝涼目錄とある。

(8) 弘仁二年九月廿五日勘物使解

KAMMOTSUSHI-NO-GE: THE TREASURE-INSPECTOR'S REPORT ON  
SEPTEMBER 25, 811

勘物使は寶物の檢閲使のことである。

四

(北一六四)

(9) 齊衡三年六月廿五日雜財物實錄

ZATSUZAIMOTSU JITSUKOKU: TRUE RECORD OF VARIOUS PROPERTIES,  
DATED JUNE 25, 856

前と同じく寶物點檢の目錄であるが、處々闕失がある。

(北一六五)

(10) 禮冠禮服目錄斷簡

CATALOGUE OF CEREMONIAL HEADDRESSES AND ROBES

聖武天皇と光明皇后の禮冠禮服<sup>(205)</sup>の目錄斷簡。前書の斷簡と推定せられる。

(北一六六)

(11) 沙金桂心請文

PETITIONS FOR GOLD DUST AND CASSIA

二張合裝。一張は天平勝寶九歲正月十八日造寺司が沙金二千十六兩を請うたもの、一張は天平寶字三年三月十九日施藥院が桂心一百斤を請うたもので、前者には孝謙天皇、後者には淳仁天皇の御裁可を示す「宜」の字が親書されている。

(北一六八)

(12) 雜物出入繼文

ZATSUMOTSU SHUTSUNYU TSUGIBUMI: A SCROLL OF JOINED DOCUMENTS  
ON VARIOUS OBJECTS TAKEN OUT OR PUT IN

天平勝寶四年四月八日から弘仁五年六月十七日までの寶物出入關係の文書十二張と齊衡三年の記錄<sup>(6)</sup>の斷簡とを合裝。往來(卷軸の見出し)に「雙倉北繼文」とある。

(北一六七)

(13) 出 藏 帳

SHUTSUZOCHO: RECORD OF WITHDRAWAL FROM THE REPOSITORY

天平寶字三年、赤漆文櫃木厨子<sup>(45)</sup>に納めてあつたものの出藏(藏出し)と、御劔の出藏の文書二張の合裝。往來に「御劔出」「天平寶字三年」とある。

(北一六九)

北倉階上

五

(14) 出入帳

SHUTSUNYUCHO: MEMORANDUM OF ARTICLES WITHDRAWN OR ENTERED

(北一七〇)

天平勝寶八歳十月三日から天應元年八月十八日までの寶物出入の文書十二張と天應二年二月廿二日及び延暦三年三月廿九日の寶物返納の文書とを合裝する。卷首に「雙倉北雜物出用帳」往來に「雙倉北物用帳」「東大寺 天平勝寶八歳始」とある。

(15) 王羲之書法返納文書

DOCUMENTS CONCERNING THE RETURN OF WANG HSI-CHIH'S CALLIGRAPHS

(北一七一)

天應元年八月十八日出藏した書法を延暦三年三月廿九日返納した時の文書。

(16) 雜物出入帳

ZATSUMOTSU SHUTSUNYUCHO: MEMORANDAM OF VARIOUS ARTICLES WITHDRAWN OR ENTERED

(北一七二)

弘仁二年九月廿四日から天長三年九月一日までの寶物出入の文書十一張合裝。

往來に「雙倉」「雜物下帳」とある。

(17) 御物納目散帳

(北一七三)

GOMOTSU NOMOKUSANCHO: DOCUMENTS CONCERNING ARTICLES OF IMPERIAL DEDICATION

天平寶字元年閏八月廿四日から寛喜三年三月十四日に至る納物の目録など十四張の文書を合裝する。

(18) 漆皮箱

三合

(北一)

LACQUERED HIDE BOXES FOR KESA

(91) | (94) の御袈裟を納めた獻物帳所載のもの。黒漆塗の皮箱で、御袈裟の幞ついでと箱袋(20)とを納める。

(19) 御袈裟幞ついで 袷あわせ 袷あわせ 袷あわせ

三條

(北一)

SILK FOR WRAPPING THE KESA

表裏とも花菱文の碧綾みぎののふろしき。獻物帳に「碧綾幞袷」とある。前號の箱に納める。

(20) 御袈裟箱袋 二合

SILK BAGS FOR KESA BOXES

花鳥襷文の緑藤(ろふげち)臘染(ろうせん)の絶(あし)粗(こ)い絹(きぬ)の表に、浅緑の絶(あし)の裏をつけた袋で、獻物帳には三合とあるが、いまその一を闕く。(18)の箱に納める。

(北一)

(21) 御袈裟附屬殘闕

FRAGMENTS OF KESA AND ACCESSORIES

(91) — (94)の御袈裟附屬の組緒などの殘闕。

(北二)

(22) 雜集

ZASSHU: A MISCELLANY (PL. 3)

獻物帳に「白麻紙、紫檀軸、紫羅標、綺帶」。「平城宮御宇後太上天皇御書」とあり、聖武天皇が六朝・隋唐の詩文百四十餘章を鈔録されたもので、卷尾に「天平三年九月八日寫了」とある。羅は菱文を織り出したうすもの、標は表紙のこと、綺(かんな)は細長く縞目を織り出した色糸の絹。

(北三)

(23) 杜家立成

TOKA RISSEI: A MODEL LETTER WRITER

獻物帳に「頭陀寺碑文并杜家立成一卷、紫羅標、綺帶、皇太后御書」とあつて、光明皇后の御筆に成るものであるが、碑文は傳つていない。この書は往復書簡文七十二篇を収めた文例集と稱すべきもので、杜家は編者の姓、立成はこの文例を参考すれば書簡文が立どころに成るの意であろう。料紙は諸種の色の麻紙十九張を継ぎ合せたもので、繼目裏と卷尾に「積善藤家」の方印が捺されている。

(北三)

(24) 樂毅論

GAKKI-RON: AN ESSAY (PL. 4)

光明皇后の御筆で、獻物帳に「皇太后御書」外題に「紫微中臺御書」また卷末に「天平十六年十月三日藤三娘」とある。紫微中臺は皇后宮職の唐名、藤三娘は不比等の第三女であるからの御自稱。樂毅論は將軍樂毅を論じたもので、魏の夏侯泰初之作である。

(北三)

(25) 白葛箱

TSUZURA BOX, A VINE BASKET-WORK BOX OF TSUZURA

(北三)

獻物帳によれば、前記御書三卷と亡佚した元正天皇御筆孝經とが納めてあつた箱である。

(26) 斑犀偃鼠皮御帶殘闕

GIRDLE OF MOLE SKIN WITH SPOTTED RHINOCEROS-HORN

(北四)

斑の犀角で作つた銚かざりを着けた偃鼠えんそもぐらもちの皮の帯。今残るところは方形じやうほうと半圓形はんえんけい丸まる柄こまの銚と銀の鉸具かぎだけで、偃鼠皮は鉸具に僅かに附着するに過ぎなく。

(27) 御刀子 二口

TOSU, TWO KNIVES

(北五)

一口は象牙を縁に染めて、花鳥山水の文様を撥鏤はちるはねぼりした把つかと鞘で、金具は銀に鍍金したものである。一口は斑犀の把、白牙の鞘、金具は同じく銀鍍金のものであるが、この刀子は前記の帯に錦の藥袋と共に繫着されていた刀子六口中のものである。

(28) 斑貝鞆御帶殘闕

GIRDLE OF KETSUMAKU WITH MOTTLED SHELL

(北六)

錦貝やぐの夜久乃斑貝じらがいで作つた銚かざりを着けた帯の殘闕で、斑貝の巡方と丸柄及び鉸具だけが残つている。鞆たもとは老木の身と皮との間に生ずる一種の菌。

(29) 十合鞘御刀子

【圖版五】

(北七)

TEN TOSU IN CLUSTERED SHEATHS (PL. 5)

十口の鞘を一つに束ね、刀子など左の品を備えている。

黒柿把刀子 六 金銅口(銅に鍍金した把口)五、銀口一

黒柿把錯 一 把口は銅に金漆を塗つた金漆銅口

紫檀把錯 一 金銅口

黒柿把鉈 一 金漆銅口の槍鉈

紫檀把鑽 一 金銅口、一方は刀子

(30) 三合鞘御刀子

【圖版五】

(北八)

THREE TOSU IN CLUSTERED SHEATHS (PL. 5)

北倉階上

斑犀把刀子 一 金銅口、双本に鏤がある  
紫檀把刀子 一 前に同じい  
沈香把刀子 一 前に同じい

一一

(31) 小三合水角鞘御刀子

THREE SMALL TOSU WITH BUFFALO-HORN CLUSTERED SHEATHS

(北九)

白犀把刀子 二 金銅口  
烏犀把刀子 一 前に同じい

水角は水牛の角、白犀は色の薄い犀角、烏犀は黒色の犀角。

(32) 牙笏

しやく

(北一〇)

IVORY SHAKU, SCEPTRE

獻物帳に「長一尺三寸二分 本廣一寸九分」とある。

(33) 通天牙笏

IVORY SHAKU

(北一一)

白象牙、本から末まで白羽のような美しい文理が一條通っている。これによ

つて通天牙の美稱があるのであろう。獻物帳に「長一尺一寸八分 本廣一寸六分」とある。

(34) 大魚骨笏

(北一二)

SHAKU MADE OF THE BONE OF A "BIG FISH"

獻物帳に「長一尺二寸一分 本廣一寸九分」とある。大魚は鯨のことであらう。

(35) 紅牙撥鏤尺

二枚 【圖版六】

(北一三)

IVORY FOOTRULES (PL. 6)

(36) 綠牙撥鏤尺

二枚

(北一四)

IVORY FOOTRULES

象牙を紅(35)又は綠(36)に染め、表裏側面とも文様をはねぼりして、更に色差してある。いづれも一尺で表側に一寸を劃する刻線がある。

(37) 白牙尺

二枚

(北一五)

IVORY FOOTRULES



一尺で一面に一寸目、一分目の目盛りがある。各二九纏六。

(北一六)

(38) 犀角杯 二口  
RHINOCEROS-HORN CUPS

獻物帳に犀角杯二口があるが、弘仁五年出藏。

(39) 雙六頭 六隻  
DICE FOR SUGOROKU

(北一七)

獻物帳に「雙六頭一百一十六具一隻、未造了二具」とあるものの内で、白牙で作り、一から六までの眼のつけ方は、今の物と同じである。

(40) 雜玉雙六子 八十五  
SUGOROKU PIECES

(北一八)

黒漆塗小皮箱が添っている。獻物帳に「雜玉雙六子六百六十九」「納小皮箱」とある。「雜」は種々の意。現存するもの左の八十五である。

- 水精 十二 琥碧 十二 黄瑠璃 十五 藍色瑠璃 一
- 淺綠瑠璃 十五 綠瑠璃 十五 白碁子 十四 黒碁子 一

(41) 百索縷軸

(北一九)

HYAKUSAKURU-NO-JIKU, ROLLER FOR HUNDRED ROPE STRANDS

紡錘形をなし、軸端は粉地雲縹彩色。昔漢土で端午の日に、五色の縷で索を作り、臂にしばつて、災を防ぐものとなし、百福百壽索と云つた。略して百索といふ。いま縷を巻く軸だけ遺る。

(42) 玉尺 八

(北二〇)

SHAKUHACHI, VERTICALLY BLOWN FLUTE MADE OF JADEITE

當時の尺八はいまのものとは異り、表の孔が六つある。

(43) 尺 八

(北二一)

SHAKUHACHI, VERTICALLY BLOWN FLUTE MADE OF PLAIN BAMBOO

(44) 樺纏尺 八

(北二二)

SHAKUHACHI, VERTICALLY BLOWN FLUTE OF BAMBOO

樺櫻の皮が纏いてある。

北倉階上

(45) 刻彫尺八

SHAKUHACHI, VERTICALLY BLOWN FLUTE OF BAMBOO

(北二三)

全面花文を刻し、その間、樹下美人風の人物を配している。

(22) の雑集から刻彫尺八まで次の厨子の納物であつた。ただし(38)犀角杯二口を除く。

(46) 赤漆文櫨木御厨子

【圖版七】

(北二)

RED LACQUERED CABINET (PL. 7)

文櫨木は木目に文のあるけやき、櫨は楓の古體である。獻物帳に「古様作」とある。又その傳來について、同帳に「右件厨子、是飛鳥淨原宮御宇天皇(文武)傳賜藤原宮御宇太上天皇(持統)天皇傳賜藤原宮御宇大行天皇(文武)天皇傳賜平城宮御宇中太上天皇(元正)天皇七月七日傳賜平城宮御宇後太上天皇(聖武)天皇傳賜今上(孝謙)今上謹獻盧舍那佛」とある。

西 棚

(47) 紫檀木畫挾軾

【圖版八】

(北四八)

ARM-REST (PL. 8)

木畫(寄木細工)を施し、金銀泥で山嶽花卉などを描き、脚柱は白牙の脇息である。褥(挾軾)の上の敷き物が添うている。獻物帳によると白羅の褥であるが、羅は剝落して麻を心とした中心の白綾が遺つている。

(48) 鳳形錦御軾

【圖版八】

(北四七)

ARM-REST (PL. 8)

(49) 長斑錦御軾

ARM-REST

(北四七)

長斑錦は花文を數條に配し、條の地色を色變りにした錦である。

北倉階上

(50) 白練綾大枕

LARGE WHITE PILLOW

獻物帳に大枕とあるが、弘仁二年の勘物使解(8)の目録には大軾とある。

(北四六)

(51) 銀

薰

爐

【圖版九】

SILVER INCENSE BURNER (PL. 9)

花形葛文獅子鳳を透彫した香爐で、中央で二つに開く。内に龕燈返しの鐵爐を装置し、衣服や衾などに香を焚きこめるに用いる。下半分は新補。

(北一五三)

(52) 人勝殘闕雜張

NINSHO, A DECORATIVE GREETING CARDS USED FOR GIFT OR EX-CHANGE AT THE NEW YEAR'S SEASON

人勝は荆楚歳時記に「人日剪綵爲花勝以相遺、或鏤金薄爲人勝」と見え、色布で人物花卉の形を作つて贈答した。齊衡三年の雜財物實錄(9)に「人勝二枚、一枚在金薄字十六、一枚押綵繪女形等、邊緣有金薄裁物、納斑蘭箱一合、天平寶字元年潤八月廿四日獻物」とある。いま二枚の殘片を集めて一張としてある。黄羅の上に

(北一五六)

「令節佳辰、福慶惟新、變變(か)和万載、壽保千春」の佳祥の文字がある。なお「納人勝箱」と朱書した箱があるが、これは柳箱である。

(53) 繡

線

鞋

四兩

EMBROIDERED SHOES

(北一五二)

赤地錦を張つた履で、爪先に花形の刺繡がある。獻物帳によると、もと八兩あつたもの。

(54) 漆

胡

瓶

【圖版一〇】

LACQUERED EWER (PL. 10)

(北四三)

獻物帳に「銀平脱花鳥形、銀細鑲連繫鳥頭蓋、受三升半」とあるもので、籠地に布を張り、これに漆をかけ、銀平脱で文様を現わし、注口は鳥頭に象つて、その蓋と把手を銀の鎖で繋いである。

平脱は金や銀の薄板を用いて文様を截り、器の上に漆で塗りこめ、更に文様を磨き出し、毛彫をして仕上げる手法である。

(55) 赤 漆 小 櫃

LACQUERED SMALL CHEST

(北一八〇)

(95) の御床の縁繩袷を納める。

(56) 細 長 櫃

LONG BOX

(北一七九)

(96) の御大刀を納めたもの。

南 棚

(57) 漫 背 八 角 鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR

(北四二ノ四)

背に文様がない鏡で、獻物帳に「重大十四斤十五兩、徑一尺四寸七分」とある。緋繩の舊帶遺存。いま付いているのは新品以下これに倣う)

重さを測るに大斤小斤、大兩小兩があり、大は小の三倍、一斤は十六兩で、大一斤は約〇・六疋、大一斤は約三七・五瓦に當る。なお獻物帳に載っている鏡は二十面であるが、五面は弘仁十三年三月二十六日に出藏された。

(58) 八 角 櫃 匣

OCTAGONAL BOX

前號の鏡の箱。印籠蓋で緋綾のつちかひ覗がある。(60)(62)(64)もこれに同じい。

(59) 鳥 獸 背 八 角 鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR, WITH A DESIGN OF BIRDS AND ANIMALS

(北四二ノ三)

ON THE BACK

獻物帳に「鳥獸花背」重大十三斤十五兩、徑一尺四寸五分半」とあるが、花の文様はない。緋繩の舊帶遺存。

(60) 八 角 櫃 匣

OCTAGONAL BOX

前號の鏡の箱。

北倉階上

(61) 鳥獸花背八角鏡 【圖版一】

(北四二ノ二)

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR, WITH A DESIGN OF BIRDS, ANIMALS AND FLOWERS ON THE BACK (PL. 11)

徑六四纏五、獻物帳に「重大四十八斤八兩、徑二尺一寸七分」とある大鏡で、緋絶の舊帶遺存。

(62) 八角楹匣 【圖版一】

(北四二ノ二)

OCTAGONAL BOX (PL. 11) KOB. ALUM. V. DESIGN OF BIRD AND YAMAYI

前號の鏡の箱

(63) 鳥獸花背圓鏡

(北四二ノ二)

ROUND BRONZE MIRROR, WITH A DESIGN OF BIRDS, ANIMALS AND FLOWERS ON THE BACK

獻物帳には「鳥花背」とあるもの「重大四十三斤八兩、徑一尺五寸八分」とある。緋絶の舊帶遺存。

(64) 八角楹匣

OCTAGONAL BOX

前號の鏡の箱

(65) 平螺鈿背圓鏡

(北四二ノ五)

ROUND BRONZE MIRROR

獻物帳に「重大七斤五兩、徑一尺二寸九分、平螺鈿背」とある。この鏡以下(78)までの八面の鏡は、後堀河天皇の寛喜二年に僧顯識らが盗んで、京都で賣ろうとして賣れないので、破毀したものである。未修理。箱を失う。

(66) 漆皮鏡箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

(67) 漆背金銀平脫圓鏡

(北四二ノ六)

ROUND BRONZE MIRROR

獻物帳に「重大六斤一兩、徑一尺二寸六分」とある。未修理。箱は失う。

(68) 漆皮鏡箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

北倉階上

(69) 平螺鈿背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR, THE MOTHER-OF-PEARL INLAY ON LACQUERED BACK

(北四二ノ九)

獻物帳に「重大三斤十三兩、徑九寸一分」とある。破片五を合せて補修。

(70) 漆皮箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

前號の鏡の箱、緋綾の覗。

(71) 平螺鈿背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR, THE MOTHER-OF-PEARL INLAY ON LACQUERED BACK

(北四二ノ一〇)

獻物帳に「重大三斤七兩、徑九寸」とある。破片四を合せて修補。

(72) 漆皮箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

前號の鏡の箱、緋綾の覗。

(73) 平螺鈿背八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR, THE MOTHER-OF-PEARL INLAY ON LACQUERED BACK

(北四二ノ八)

獻物帳に「重大四斤三兩、徑一尺」とある。破片十三に一片を補足して修補。

(74) 漆皮箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

前號の鏡の箱、緋綾の覗。

(75) 平螺鈿背八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR, THE MOTHER-OF-PEARL INLAY ON LACQUERED BACK

(北四二ノ七)

獻物帳に「重大五斤一兩、徑一尺一寸」とある。破片八に一片を補足して修補。

(76) 漆皮箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

前號の鏡の箱。緋綾の覗。

(77) 漆背金銀平脱八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR, THE MOTHER-OF-PEARL INLAY ON LACQUERED BACK

(北四二ノ一二)

獻物帳に「重大四斤一兩、徑九寸六分」とある。破片十四に二片を補足して修補。

(78) 花鳥背八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR, WITH A DESIGN OF FLOWERS AND BIRDS IN RELIEF

(北四二ノ一四)

獻物帳に「重大五斤十三兩、徑一尺一寸三分」とある。破片四十五に六片を補足して修補。

(79) 漆鏡箱

ROUND LACQUERED BOX

緋綾の襷。

(80) 平螺鈿背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR, THE MOTHER-OF-PEARL INLAY ON LACQUERED BACK

(北四二ノ一一)

獻物帳に「重大三斤十二兩、徑九寸一分」とある。多く舊態を保っている。

(81) 平螺鈿背八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR, THE MOTHER-OF-PEARL INLAY ON LACQUERED BACK

(北四二ノ一三)

獻物帳に「重大三斤四兩、徑九寸二分」とある。舊態を保つところが多い。緋絶の舊帶遺存。

(82) 漆皮金銀繪鏡箱

OCTAGONAL LACQUERED BOX, WITH PAINTINGS OF FLOWERS AND BIRDS IN GOLD AND SILVER

緋綾の襷があるが、残破している。

(83) 槃龍背八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR, WITH A DESIGN OF TWO ENTANGLED DRAGONS

(北四二ノ一六)

獻物帳に「重大六斤一分、徑一尺七分」とある。緋絶の舊帶遺存。

北倉階上

(84) 漆 皮 箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

前號の鏡の箱で、緋綾の覗は朽壞している。

(85) 花鳥蝶背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR, WITH A DESIGN OF FLOWERS, BUTTERFLIES AND BIRDS

(北四二ノ一五)

獻物帳の「重大六斤五兩、徑一尺七分、花鳥背」の鏡に當るものともいえない。緋絶の舊帶遺存。

(86) 漆 皮 箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

前號の鏡の箱で、緋綾の覗。

(87) 雲鳥飛仙背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR, WITH A DESIGN OF BIRDS AND IMMORTALS RIDING ON CRANES AMONG CLOUDS

(北四二ノ一七)

獻物帳の「重大四斤十二兩、徑九寸三分、花雲鳥背」の鏡に當るものともいえない。緋絶の舊帶遺存。

(88) 漆 皮 箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

前號の鏡の箱で、緋綾の覗。

(89) 山水鳥獸背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR, WITH A DESIGN OF LIONS, MONKEYS, DEER AND BIRDS IN A LANDSCAPE

(北四二ノ一八)

獻物帳の「重大四斤十五兩、徑九寸二分、山水花蟲背」の鏡に當るものともいえない。緋絶の舊帶遺存。

(90) 漆 皮 箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

前號の鏡の箱で、緋綾の覗。



(91) 九條刺納樹皮色袈裟

KESA OF SHINO IN TREE-BARK COLOUR IN NINE STRIPS

(北一)

九條は一幅の裂を九枚繋いであること、刺納は各種の色の裂を寄せ、また重ねて刺子にしたものを磨り減らす手法、樹皮色は諸種の色が不規則に交錯して作る一つの文様。この類の袈裟を遠山袈裟という。碧綾の裏がついている。

(92) 七條褐色紬袈裟

BROWN TSUMUGI KESA OF SEVEN STRIPS

(北一)

獻物帳に「金剛智三藏袈裟」とある。紬というが、或は羅か。

(93) 七條織成樹皮色袈裟

SHOKUSEI KESA OF TREE-BARK COLOUR IN SEVEN STRIPS

(北一)

色糸で遠山形を織り出す。紺綾の裏。織成は辭源に「與錦極相似、唯古錦皆有地、織成全以采絲或金縷織爲文章耳」とある。

(94) 七條刺納樹皮色袈裟

SHINO KESA OF TREE-BARK COLOUR IN SEVEN STRIPS

(北一)

碧綾の裏二領、紺絹の裏一領、紺綾の裏一領、紺絶の裏一領。

(95) 御

床 二張

(北四九)

ON-SHO, FOUR-LEGGED RECTANGULAR SEATS

獻物帳に「並塗胡粉具、黒地錦端疊、褐色地錦褥一張、廣長亘兩床、緑絶袷覆一條」とある。褥は未発見。御床の胡粉は僅かに痕を留めている。

(96) 金銀鈿莊唐大刀

SWORD EMBELLISHED WITH GOLD AND SILVER (PL. 12)

(北三八)

銀に鍍金した装具に珠玉を嵌めた大刀で、獻物帳に「双長二尺六寸四分 鋒者兩刃 鮫皮把作山形葛形裁文 鞘上末金鏤作 白皮懸 紫皮帶執」とあるもの。末金鏤は漆地に錯でおろした金粉で文様を現わす手法。

(97) 花<sup>か</sup>

氈<sup>せん</sup>

三十一床 【圖版一三】

(北一五〇)

PATTERNED RUGS (PL. 13)

文様のある毛氈である。獻物帳によると納入の花氈は六十床であるが、出入帳<sup>(14)</sup>によると天平寶字三年六十七枚が出藏されていて、また返納の記録がない。

(98) 伎

樂 面

GIGAKU MASKS

(718) を見られたい。

# 北倉階下

## 前棚

(99) 金銀平文琴

【圖版一四】

(北二六)

LACQUERED KIN, PROFUSELY INLAID WITH GOLD AND SILVER (PL. 14)

桐材漆塗で七絃。面は金銀の薄板を截つて人物草木鳥獸を、背は銀の薄板を剪つて雙龍花卉を漆地に塗り込んである。背に銀平文で漢の李尤が作るところの「琴之在音、邊滌耶心、雖有正性、其感亦深、存雅却鄭、浮侈是禁、條暢和正、樂而不淫」の銘がある。また腹内に「清琴作兮□日月 幽人間兮□□□」乙亥之年季春造」とあつて乙亥は唐玄宗開元二十三年(聖武天皇天平七年)に當てる説がある。なお絃と軫<sup>こ</sup>の留<sup>とめ</sup>であるが、また絃の弛張を加減するもの(の)殘闕遺存。この琴は

獻物帳所載の銀平文琴が弘仁五年十月十九日に出版された代りとして、同八年五月十七日に納入されたものである。

(100) 残

絃

(北一五四)

STRINGS FOR MUSICAL INSTRUMENTS

白絃 附屬の小木箋墨書 「琴絃」 「白」

斑絃 同 「琴絃」 「斑」

中小絃 同 「中絃五」 「小絃五」

箏絃 同 「箏絃」

(101) 銀平脱合子

(北一五四)

GOSU INLAID WITH SILVER

獻物帳には前號の絃を銀平脱の梳箱に盛るとあるが、梳箱を供し、この合子(蓋物)に換つてゐる。

(102) 螺鈿紫檀阮咸

【圖版一五】

(北三〇)

GENKAN INLAID WITH MOTHER-OF-PEARL, AMBER AND TORTOISE SHELL (PL. 15)

獻物帳に「綠地畫捍撥」とあつて、捍撥(撥)の當るところの綠地の革に人物を描く。全器を螺鈿・琥珀・瑤瑁で飾る。

阮咸は四絃の樂器で、名稱は竹林の七賢人の一人、晋の阮咸の名に因る。

(103) 螺鈿紫檀五絃琵琶

【圖版一六】

(北二九)

FIVE-STRINGED BIWA INLAID WITH MOTHER-OF-PEARL, AMBER AND TORTOISE-SHELL (PL. 16)

撥面に瑤瑁を貼り、螺鈿で駱駝に乗る胡人が琵琶を弾する圖を現わしている。

(104) 彫石横笛

(北三三)

STONE FLUTE, WITH A DESIGN OF ENTWINED VINES AND INSECTS CARVED IN RELIEF

(105) 彫石尺八

【圖版一八】

(北三四)

STONE SHAKUHACHI, WITH A DESIGN OF ENTWINED VINES AND INSECTS CARVED IN RELIEF (PL. 18)

この横笛と尺八は對をなすもので、ともに蔓草文を浮彫する。

(106) 漆鞘御杖刀

CANE SWORD

獻物帳に「双長一尺九寸、鋒者偏双、鮫皮把、金銀線押縫、以牙作頭、以漆塗鞘、以鐵裹鞘尾、銀鏤其上、長四尺六分」とあるもの。押縫は鮫皮の合せ目を金銀線で押縫うこと、頭は把頭銀鏤は銀象嵌のことである。

(北三九)

(107) 吳竹鞘御杖刀

CANE SWORD

獻物帳に「双長二尺一寸六分、鋒者偏双、金鏤星雲形、紫檀樺纏、眼及把竝用銀紫組懸、吳竹鞘樺纏、長五尺三寸四分」

(北三九)

金象嵌の星雲は北斗七星と雲。樺纏は樺櫻の皮で纏くこと、眼は把の眼貫孔、紫組懸は眼貫孔に通した紫の組紐、吳竹は管竹のことである。

(108) 細長櫃

LONG BOX

右二口の杖刀の容器。

(北七九)

(109) 檜和琴殘闕

KOTO, IN THE JAPANESE STYLE

(北八一)

(110) 棚厨子

TIER OF SHELVES

(北七四)

前棚に納めてある品々が載っている。

(110) は獻物帳に見えないが、弘仁二年勸物使の解(8)に載っている。

中棚

(111) 金泥繪新羅琴

SHIRAGI KOTO OF PAULOWNIA WOOD

(北三五)

獻物帳所載の金鏤新羅琴二張は、弘仁十四年二月十九日出藏、同年四月十四日、本號及次號の琴二面が代りに納められた。この琴は十二絃新羅樂の用物。雜

物出入帳(16)に「表圖木形金泥畫裏以金薄押遠山竝雲鳥草等形箭面畫日象」とあるものであるが撥面を佚し、表裏の畫剝落して、頭部に金繪の一部を残すだけである。絃は殘闕によつて摸造、組緒は新補柱は舊物三。

(112) 金薄押新羅琴

【圖版一七】

(北三五)

SHIRAGI KOTO OF PAULOWNIA WOOD DECORATED WITH KIRI-KANE (CUT-GOLD) (PL. 17)

雜物出入帳に「表以金薄押輪草形鳳形裏以金薄畫大草形箭面畫草鳥形」とある。絃は摸造、組緒は新補、柱は舊物六。

金薄押は截金金薄を剪つたもので文様を貼付けたものである。

(113) 吳

竹 笙

【圖版一八】

(北三一)

SHO OF SMALL BAMBOO OF THE SPECIES KNOWN AS KURE-TAKE (PL. 18)

(114) 吳

竹 竽

【圖版一八】

(北三二)

WU OF SMALL BAMBOO OF THE SPECIES KNOWN AS KURE-TAKE (PL. 18)

竽は笙の類で形が大きい。笙竿とも獻物帳に「漆膝壺」とある。膝は壺に付ける吹口。

(115) 螺 鈿紫檀琵琶

(北二七)

BIWA OF SHITAN-WOOD, INLAID WITH MOTHER-OF-PEARL

獻物帳に「綠地畫捍撥」とあるが、捍撥を佚する。

(116) 紅 牙 撥 鏤 撥

(北二八)

BIWA PLECTRUM OF IVORY STAINED CRIMSON AND CARVED

前號琵琶の撥で、兩面に花鳥を彫つてゐる。

(117) 棚 厨 子

(北一七四)

TIER OF SHELVES

(110) に同じ。

隅 棚

(118) 鳥毛帖成文書屏風

六扇

SCREEN PANELS WITH LETTERS FORMED WITH BIRD'S FEATHERS

(北四四)

一疊六扇、無文の紙本に、鳥毛を貼つて文字を成したもので、文は左のとおりである。(二行一扇を示す)

種好田良易 <sub>レ</sub> 以 <sub>レ</sub> 得 <sub>レ</sub> 穀	君賢臣忠易 <sub>レ</sub> 以 <sub>レ</sub> 至 <sub>レ</sub> 豐
諂辭之語多 <sub>レ</sub> 悅會 <sub>レ</sub> 情	正直之言倒 <sub>レ</sub> 心逆 <sub>レ</sub> 耳
正直爲 <sub>レ</sub> 心神明所 <sub>レ</sub> 祐	禍福無 <sub>レ</sub> 門唯人所 <sub>レ</sub> 召
父母不 <sub>レ</sub> 愛 <sub>レ</sub> 不 <sub>レ</sub> 孝之子	明君不 <sub>レ</sub> 納 <sub>レ</sub> 不 <sub>レ</sub> 益之臣
清貧長樂濁富恒憂	孝當 <sub>レ</sub> 竭 <sub>レ</sub> 力忠則盡 <sub>レ</sub> 命
君臣不信國政不 <sub>レ</sub> 安	父子不信家道不 <sub>レ</sub> 睦

元祿中の修理。

屏風は天平勝寶八歳六月二十一日一百疊をはじめ七月二十六日天平寶字二

年十月一日にも獻入され、弘仁五年九月十七日三十二疊出藏されても、なお多數遺つているが、表装の剝落して舊態が窺いにくいものが多い。

(119) 鳥毛篆書屏風

六扇 【圖版一九】

(北四四)

SCREEN PANELS WITH "SEAL" STYLE CHARACTERS FORMED WITH BIRD'S FEATHERS (PL. 19)

一疊六扇、紙本彩地に花文を白く抜いた上に、鳥毛を貼つて篆書を作り、一字毎に楷書の同字を彩色で繰返している。その文は左のとおりである。(かぎ割弧は扇別を示す)

主無<sub>レ</sub>獨治<sub>レ</sub> 臣有<sub>レ</sub>贊明<sub>レ</sub> 箴規苟納 咎悔不<sub>レ</sub>生 明王致<sub>レ</sub>化 務在<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>人  
 任愚政亂 用<sub>レ</sub>哲民親<sub>レ</sub> 近<sub>レ</sub>賢無<sub>レ</sub>過 親<sub>レ</sub>佞多<sub>レ</sub>惑 見<sub>レ</sub>善則遷 終爲<sub>レ</sub>聖德

また玉蟲翅翼の裝飾がある。この屏風も元祿中の修理。

(120) 揩

布

屏風袋

三口

(北四五)

BAGS FOR SCREENS, OF HEMP-CLOTH, PRINTED OR STAMPED

獻物帳所載のものでなく、袋だけである。麻布で袷になつていて、型を置いて

北倉階下

文様を摺り出したもの。三口とも墨書がある。一口に「東大寺屏風袋、天平勝寶五年三月廿九日」「緑地馬木形高五尺」「緑地馬從人形」「矢田部咋万呂」。一口に「緑地□木形高五尺」「天平勝寶五年三月廿九日裏に「占部馬麻呂」「上野國佐位郡佐位郷戸主□前部黒麻呂庸布一段長二丈八尺 廣二尺四寸天平威感寶元年八月 主當國司□□二等義□、郡司大領木□前部君賀味麻呂」。一口に「東大寺屏風袋、天平勝寶五年三月廿九日」「白椽地木鳥象馬形裏に「矢田部咋万呂」とある。天平勝寶五年三月廿九日、東大寺で仁王會が行われたことは續日本紀に見えている。

北  
棚

(121) 鳥毛立女屏風

六扇 【圖版二〇】

SCREEN PANELS WITH DESIGN OF LADIES UNDER TREES, DECORATED WITH BIRDS' FEATHERS (PL. 20)

(北四四)

樹下美人の屏風で、各扇圖柄がちがうが、顔と手先に彩色を施し、著衣樹石には鳥毛を貼つたもの。鳥毛が僅かに残つたところがある。

(122) 山水夾纈屏風

四扇

SCREEN PANELS WITH LANDSCAPE DESIGN IN KYOKECHI

(北四四)

獻物帳所載十二疊中のもの。圖様は四扇とも同型。三扇は絶地、一扇は紗地である。夾纈は花文を彫り抜いた二枚の板に裂きれを挟んで染めたものである。

(123) 鹿草木夾纈屏風

SCREEN PANEL WITH DESIGN OF ANIMALS IN KYOKECHI

(北四四)

獻物帳に載せる麟鹿草木夾纈屏風十七疊の中の鹿草木夾纈屏風五疊中の一扇である。

(124) 鳥木石夾纈屏風

六扇

SCREEN PANELS WITH DESIGN OF BIRDS, TREES AND ROCKS IN

(北四四)

KYOKECHI

獻物帳所載の九疊中のもので、二扇相並んで左右對稱となる。

(125) 鳥草夾纈屏風 六扇 【圖版二一】

四四

(北四四)

SCREEN PANELS WITH DESIGN OF BIRDS AND GRASSES IN KYOKECHI (PL. 21)

絶地二扇綾地四扇

(126) 古人鳥夾纈屏風

(北四四)

SCREEN PANEL WITH DESIGN OF MAN AND BIRDS IN KYOKECHI

獻物帳所載の四疊は弘仁五年出藏して還納されない。本號のものは別種で名稱も當らない。

(127) 藤 纈 屏 風 四扇 【圖版二一】

(北四四)

SCREEN PANELS WITH DESIGN OF ANIMALS AND BIRDS IN ROKECHI (PL. 21)

各扇象・羊・熊鷹・尾長鳥と圖様がちがう。雜財物實錄(9)から判断するに四種の屏風の殘闕と考えられる。

(128) 木畫紫檀棊局 【圖版二二】

(北三六)

GO GAMING BOARD (PL. 22)

木畫を施した紫檀(張り)の碁盤で、縦横十九の界線と脚は象牙、環を着けた抽斗

が二個相對している。抽斗は一方を引けば、他の方もおのずと開き、内に龜形が割つてある。

(129) 金銀龜甲 龕

(北三六)

BOX FOR GO BOARD

前號の納れ物。綠地に金箔銀箔の花文を置いた上に瑠璃を張り、鹿角で龜甲形の界を作つてゐる。

(130) 木畫紫檀雙六局

(北三七)

SUGOROKU GAMING BOARD, A SHITAN-WOOD STAND

雙六盤である。獻物帳によると脚は象牙であるが、黄楊木で新補する。

(131) 漆 緣 籐 條 龕

(北三七)

BOX FOR SUGOROKU BOARD, OF BRAIDED BAMBOO STRIPS

前號の納れ物で、籐條は竹の網代細工。

(132) 榻

足

机

六前

(北一七六)

LOW TABLES

北倉階下

四五



物を載せる臺机。四脚。脚が左右に開いている。

四六

(133) 銀平脱合子 四合

(北二五)

GOSU INLAID WITH SILVER

次の二號の棊子の容器。

(134) 紅牙紺牙撥鏤棊子

(北二五)

GO PIECES ROUND VERMILION IVORY PIECES CARVED IN BACHIRU STYLE

(135) 白黒棊子

(北二五)

GO PIECES OF QUARTZ AND BLACK STONE

白石は硬玉、黒石は橄欖石である。

(136) 卅二足几

(北一七七)

TABLE WITH THIRTY-TWO LEGS

片側十六本ずつの足がある几。獻物帳には載っていない。

(137) 青斑鎮石 十挺

(北一五五)

STONE WEIGHTS

(138) 赤漆小櫃

(北一五五)

SMALL CHEST LACQUERED RED

前號の鎮石を納める。木牌に「第卅小櫃」とある。

(139) 赤漆小櫃

(北一八〇)

SMALL CHEST LACQUERED RED

西棚

(140) 犀角器

(北五〇)

RHINOCEROS-HORN CUP

もと杯であつたものを薬用にまわしたものであろう。底裏に「弘仁二年九月十七日勘十二兩二分」とあり、獻物帳に「重九兩三分」とあるのとは一致しない。獻物帳所載の薬物は六十種であるが、傳わらないものもある。また薬帳に載

北倉階下

四七

つていなゝものも少くなす。

(141) 小草 (北五二)

SHOZO: POLYGALA TENUIFOLIA

獻物帳の小草は延暦十八年全部出藏。

(142) 畢撥 (北五三)

HIHATSU: PIPER LONGUM

莖と根と二とありある。根の方は畢撥没という。南洋やペルシヤに産する。二瓶の内、甲は根と莖。乙には根莖の外、夾雜物が多い。白絶の袋が附屬し、畢撥根三斤十五兩小并袋」などの墨書がある。

(143) 寒水石 (北五五)

KANSUISEKI: CALCAREOUS SPAR

方解石である。「寒水石十八斤八兩」と墨書ある白絶の巾きれが附屬している。

(144) 太一禹餘糧 (北六二)

TAICHI-UYORO: A PIECE OF STONE OR CLAY IRON ORE

つぼいしの一。獻物帳に禹餘糧と太一禹餘糧とが載っているが、禹餘糧は既にない。禹餘糧には禹が山に入つて食に乏しく、これを糧とし、餘りを棄てたので、この名ができたという傳説がある。太一禹餘糧と精粗の差がある。「太一禹餘糧二斤十二兩少」の墨書がある白絶の袋が附屬している。

(145) 龍骨 (北六四)

RYUKOTSU: PETRIFIED BONE OF STEGODON ORIENTALIS

象科や犀科の動物の骨の化石。

(146) 白龍骨 (北六七)

HAKU-RYUKOTSU: PETRIFIED BONE OF WHITE STEGODON ORIENTALIS

「白龍骨五斤少」の墨書がある白絶の袋が附屬している。

(147) 龍角 (北六九)

RYUKAKU: HORN OF MONODON MONOCEROS, L.

(148) 五色龍齒 (北七〇)

GOSHIKI-RYUSHI: PETRIFIED TEETH OF STEGODON SINENSIS, OW. (PL. 23)

(149) 雷丸 らいがん 象の臼齒の化石。「五色龍齒廿四斤少」と墨書の白絶の袋が附属している。

(北七三)

RAIGWAN: MYLITTA LAPIDESCENS, HOR.

竹に寄生する一種の菌。「雷丸八斤四兩少并袋」と朱書の白絶の袋が附属してゐる。

(150) 赤石脂 しゃくせきし

(北七七)

SHAKUSEKISHI: A KIND OF GOSHIKI SEKISHI.

酸化アルミニウムで、多量の酸化鐵を含んでいる。「赤石脂七斤二兩少、弘仁二年定」の墨書がある白絶の袋が附属している。

(151) 鍾乳床 しゆにゅうしど 二個

(北七九)

SHONYUSHO: STALACTITE

鍾乳石であるが獻物帳外のものか。白絶の袋が附属し、鍾乳床十斤小などの墨書があり、「第二横」と墨書のある木牌が附いている。獻物帳に「納第二横」とあるのに合う。また裏があり、「常陸國信太郡大野郷戸主生部衣麻呂調(布の字脱か)壹

端、專當國司正八位上志貴上連秋島郡司擬主政无位物部大川、天平勝寶四年十月一日」の墨書と國印がある。また、「入野郷生部金万呂」と墨書してある。

(152) 巴豆 はす (北八一)

HAZU: CROTON TIGLIUM, L.

南方アジヤに産する。現代のものと同一で、「巴豆四斤少并袋」と墨書のある袋が附属する。

(153) 厚朴 こうはく 二束 (北八四)

KOBOKU: MAGNOLIA HYPOLEUCA, S. et Z.

ほおの木のの屬で、中國産のもの。四川産の最良品か。「厚朴十三斤八兩少」と墨書のある麻袋がある。

(154) 遠志 えんし 二束 【圖版二四】 (北八六)

ONJII: ROOT OF POLIGALA TENUIFOLIA, WILD (PL. 24)

中國の産。もと束ねたまゝの姿である。ひめはぎ科のいとひめはぎの根で、今のものに同じ。

(155) 桂

KEISHIN: CINNAMOMUM CASSIA

心 六束餘

(北八八、八九)

南支や東印度に産する。いわゆる肉桂で、外皮などを除去したもの。麻袋が  
附屬し、「桂心八十一斤小井袋」の墨書がある。また「五横桂心」の墨書のある木牌が  
附いている。獻物帳に「納第三第四第五横」とあるのに合う。

(156) 芫

GENKWA: DAPHNE GENKWA

花

(北九二)

じんちようげ科のふじもどきの花蕾で、中國中部に産する。現品は大部分蟲  
害を受けているが、現今のものに同じい。袋七口附屬。皆その斤兩を注記した  
墨書がある。また木牌があり、「第六横、匙」の墨書があつて、獻物帳に「納第六第七第  
八横」とあるのに合う。匙は錠の鍵である。

(157) 人

NINJIN: RADIX GINSENG (?)

參

(北九三)

人參ではなし。

麻布の袋四口があり、その斤兩を注記してある。うち一口に「常陸國鹿島郡高  
家郷戸主占部手子戸占部島鷹調曝布壹端、專當國司史生正八位上志貴連秋島郡  
司擬少領无位中臣鹿島連浪足、天平勝寶四年十月」の墨書と國印がある。この袋  
は、すべて<sup>(194)</sup>に屬するものであろう。

(158) 大

DAIWO: ROOT OF RHEUM OFFICINALE

黄

(北九五)

たで科に屬し、根莖を用いる。本品は錦紋あるもので、中國甘肅地方に産する  
最上のもの。完形のものには干すために繩を通した孔、すなわち穿眼がある。  
附屬の袋の木牌に「第十二横」と墨書があるが、獻物帳に「納第十二第十三第十四横」  
とあるのに合う。

(159) 藤

ROMITSU: CERA

蜜

(北九七)

蜜蜂の巢から採取した蜜臘である。附屬の木牌に「十五横第廿九通用」とある。  
蓋し横の錠の鍵に附いていたもので、獻物帳に「納第十五十六横」とあるのと合う。

北倉階下

五三

(160) 芒消と壺

BOSHO: MIRABITE

芒消は普通硫酸ナトリウムであるが、本品は含水硫酸マグネシウム(瀉利鹽)である。壺と袋とがある。袋に「芒消」云々と墨書がある。

五四

(北一〇一)

(161) 胡同律

KOTORITSU, HARDENED SAP OF POPULUS EUPHRATICA

胡桐涙で胡桐の蟲傷による分泌物の固つたものと言う。胡桐の原植物については定説がないが、本草には中國の甘肅からペルシャ方面のものとしている。附屬の壺を供する。

(北一〇二)

(162) 雲母粉

UNBOFUN: MICA POWDER

包紙に「雲母粉三兩大并紙」とある。雲母の粉末。

(北一〇三)

(163) 無食子

SOSHISHI: SEED OF ABRUS PRECATORIUS

相思子(唐小豆)である。(184)と入れ替つたものか。

(北八三)

(164) 戎鹽と壺

TYUEN: SALAMONIAC

中國西北地方に産する天然鹽。

(北一〇四)

(165) 甘草

KANZO: ROOT OF GLYCYRRHIZA GLABRA

甘肅、青海産の良品。袋と裏とを具する。また「十八横甘草」と墨書のある木牌が附いている。獻物帳に「甘草九百六十斤、右納第十七第十八第十九横」とあるのに合う。

(北九九)

(166) 藥壺

MEDICINE JARS

五口

(北一〇六)

(167) 藥碗

CERAMIC BOWLS FOR MEDICINES

二口

(北一〇七)

(168) 黒漆 槻薬合子 (北一〇八)

GOSU FOR MEDICINES, LACQUERED

(169) 槻 薬合子 六合 (北一〇九)

GOSU FOR MEDICINES

(170) 檜 薬合子 (北一一〇)

GOSU FOR MEDICINES

(171) 雄 黄 (北一一一)

YUWO: REALGAR

以下の薬品は獣物帳外のもの。

(172) 白 石 英 (北一一二)

HAKU-SEKIEI: WHITE QUARTZ

水晶。獣物帳の石水氷に當てる説がある。

(173) 麝 香 皮 (北一一四)

JAKO-HI: MUSK SKIN

薬帳の麝香の外皮か。麝香鹿は、アジヤの東部及び中部に棲息する。

(174) 琥 碧 (北一一五)

KOHAKU: AMBER

中国雲南方面に多く産する。本品は硬度低く現在の琥碧ではない。

(175) 滑 石 (北一一三)

KASSEKI: STEATITE, OR TALC

中国、山東、河南等に産し、国内にも産する。

(176) 木 香 (北一一八)

MOKKO: SAUSSUREA LAPPA

現今の土木香。ヒマラヤからカシミア地方の原産。

(177) 丁 香 (北一一九)

CHOKO: CARYOPHILLI

丁子、丁子香ともいう。マラツカ群島に産する。袋を具し、槻合子が附いている。

(178) 蘇

芳

SUHO: SAPAN WOOD, CAESALPINIA SAPPAN

南方亞熱帶熱帯に産する。

(179) 青

木香

SHOMOKKO: ARISTOLOCHIA KAEMIFERI, WILD

槻合子が附屬し、また袋が残存する。中倉の忍冬鳳文小横<sup>(453)</sup>の題箋に「納丁香  
青木香 會前 東大寺」とあつて大佛に獻じられてもいる。我が國に産するも  
のは、一名うまのすゞくさという類似品である。

(180) 藥

塵 二瓶

MEDICINE ODDMENTS

(北一三五)

藥帳の蓋核・胡椒・理石帳外の白檀・決明子・甘松香・大麻仁・胡荽子などが混在する。

(181) 陶 藥 器 殘 闕

FRAGMENTS OF CERAMIC JARS AND BOWLS FOR MEDICINES

(182) 冶

葛

壺

【圖版二五】

YAKATSU JAR, FOR THE ROOT OF RHUS TOXICODENDRON, L. (PL. 25)

(北一〇五)

冶葛は獻物帳所載のものであるが今はない。蓋に「冶葛」 と墨書する。

南 棚

(183) 藥

袋

MEDICINE BAGS

(184) 沒

食

子

MUSHOKUSHI, GALLAE HELEPPENSES

(北一二四)

ぶな科の植物に沒食子蜂が寄生してできたもの。小アジア産のものと同じ  
で、ふし蜂も検出されている。獻物帳所載のものか。

(185) 烏藥の屬 (北一二七)

UYAKU, ROOT OF LINDERA STRYCHNIFOLIA

烏藥ではない。(182)の治葛かという説がある。

(186) 獸膽 (北一三二)

JIU-TAN, ANIMAL GALL-BLADDER

猪膽かの説がある。

(187) 礦石數種 (北一三四)

VARIOUS MINERALS

石膏方解石石灰石大理石及び動物の化石等。

(188) 沈香及び白檀 二瓶 (北一二九)

JINKO AND FRAGMENTS OF BYAKUDAN

大瓶の方が沈香で、南方熱帯の産、白檀は東印度マレー半島に産する。

(189) 錫薬壺 三口 (北一二八)

TIN MEDICINE JARS

(190) 紫色粉 (北一三〇)

PURPLE POWDER

岱赭石の粉末である。

(191) 白色粉 (北一三一)

WHITE POWDER

胡粉である。

(192) 草根木實數種 (北一三三)

VARIETY OF HERBS AND FRUIT

薤核香附子雷丸梔子等。

(193) 薰陸 (北一二五)

KUNROKU, HARDENED SAP OF PISTACIA KHINJUK

元來印度・ペルシヤ方面に産する樹脂香料であるが、本品はやゝ異なる。袋や裏が附屬してゐる。



(194) 竹節人參

CHIKUSETSU NINJIN: RADIX GINSENG

六二

(北一二二)

普通の人參で獻物帳所載のものか。(157)に附屬する袋は本號に屬するものであろう。

(195) 紫

鉚

SHIKO, SECRETION OF COCCUS LACCA

(北一二三)

また紫鑛と書く。ラックカイガラ蟲が樹枝に寄生して分泌したもので、印度・ペルシヤ方面に産する。獻物帳所載のものか。

(196) 銀

泥

GINDEI, PULVERIZED SILVER

(北一〇三)

包紙に「銀泥上定十五兩三(分三朱)とある。微量の金及び銅を含んでいる。

(197) 藥

袋

MEDICINE BAGS

(198) 丹

TAN: CINNABAR MINIMUM MENNINGE

百二十八裏

(北一四九)

現代の鉛丹、國內にも産する。内包は古記録の故紙を用いている。麻や紙の袋が附屬している。

(199) 杉

小 櫃

SMALL CHEST

(北一四八)

丹の一部を納める。蓋は闕く。

(200) 漆

皮 箱

LACQUERED HIDE BOX

(北一四七)

蓋表の貼紙に「第一革莒納練金」とある。

(201) 白

石 鎮子

CARVED STONES SLABS (PL. 26)

八箇【圖版二六】

(北二四)

四神と十二支を二つずつ組み合わせて半肉彫りにしている。裏に左の墨書がある。

「須彼天馬」(青龍朱雀) 「阿斯大无沙」(玄武白虎) 「須彼大馬□□□□」(子丑)

「秦司」(辰巳) 「山伐一馬」(午未) 「山伐山伐」(戌亥)  
獻物帳所載の白石鎮子十六箇は、弘仁五年九月十七日出藏して賣却されている。  
本號は鎮子というべきものではない。

(202)

御 甲 殘 闕

ARMOUR FRAGMENTS

(北四〇)

獻物帳の御甲一百領の内、一領ははやく除物となり、残りは天平寶字八年惠美押勝の亂に出藏、本號は帳外の桂甲の殘闕である。

(203) 赤 漆 八角小櫃

LACQUERED OCTAGONAL BOX

(北四三)

(204) 赤 漆 六角小櫃

LACQUERED HEXAGONAL BOX

(北四三)

前號は聖武天皇の本號は光明皇后の御禮冠の櫃で、中に冠架がある。

(205) 禮 服 御冠 殘 闕

ON-KAMMURI, IMPERIAL HEADDRESSES FOR CEREMONIAL OCCASSIONS

(北一五七)

禮服と御冠とは獻物帳には載せていないが、延暦十二年曝涼使の解(7)、弘仁二年勘物使の解(8)、齊衡の禮冠禮服目錄(10)に見えている。いま禮服を佚し、御冠は後嵯峨天皇仁治三年(一二四二)出藏、内裏に進められたが、還納の時、途上で毀損し殘闕を留める。なお禮服の木牌が存し、左の墨書がある。日附は大佛開眼の日に當る。

(表) 納禮服二具 一具太上天皇 第三櫃

(裏) 天平勝寶四年四月九日 第三櫃

(206)

漆 冠 筥 二合

LACQUERED CYLINDRICAL BOXES

(北四三)

棚外

(207) 全 浅 香  
ZENSENKO INCENSE WOOD LOG

(北四一)

獻物帳に「全浅香一材重大卅四斤」とあり、また附箋に「寺権秤定卅三斤五兩」とある。現在十六疋六百五十瓦。

(208) 金 字 牙 牌  
IVORY TABLET

(北四一)

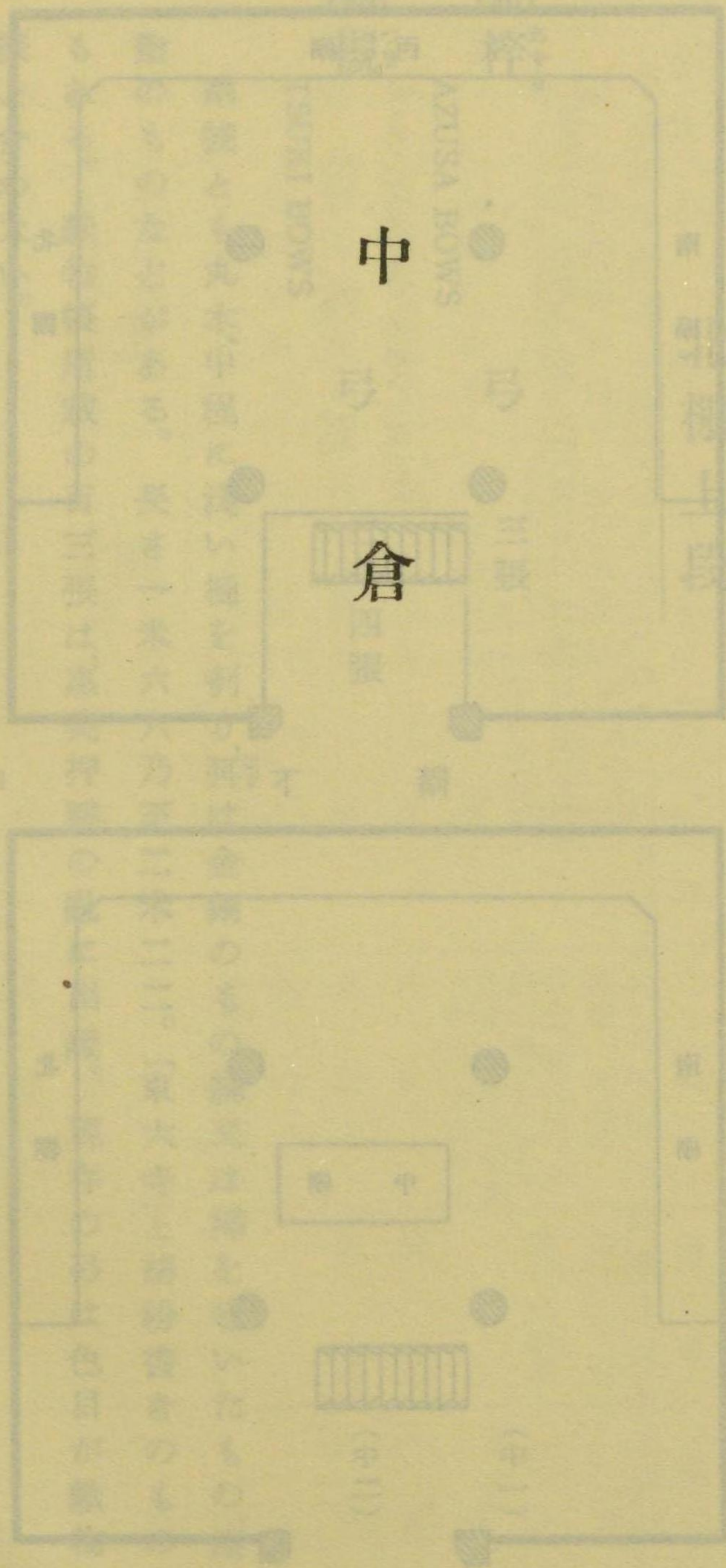
表に「仁王會獻盧舍那佛浅香一材」裏に「天平勝寶五年歲次癸巳三月廿九日」とある。この仁王會のことは續日本紀に見えている。

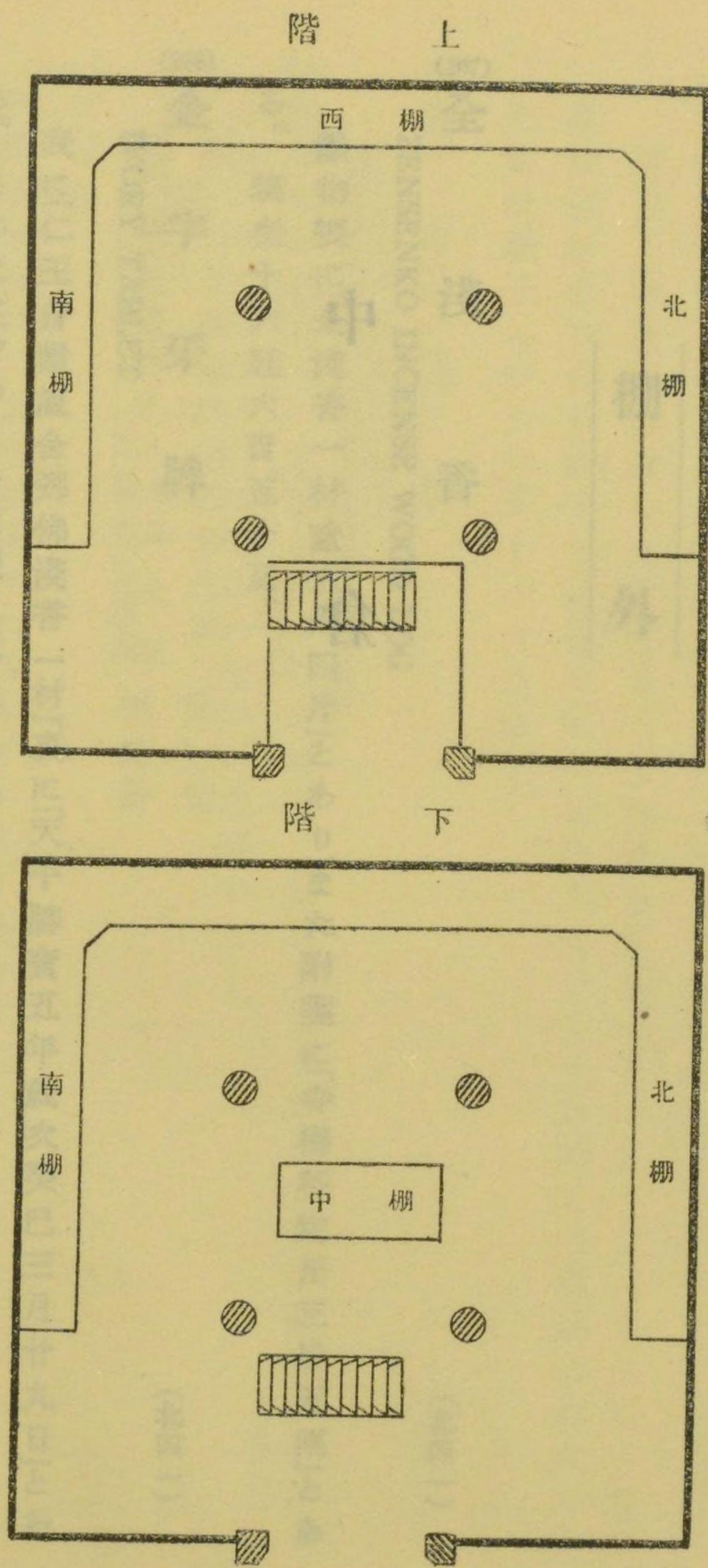
(209) 色  
COLOURED RUGS

氈 十四床

(北一五)

獻物帳外のもの。紅紫褐白の氈で文様はない。





中倉階上

北棚上段

(301) 梓あずさ

AZUSA BOWS

弓

三張

(中一)

(302) 槻つき

TSUKI BOWS

弓

二十四張

(中二)

兩號とも丸木、中程に浅い樋を削り、弭はは金銅のもの、絲又は樺を卷いたもの、漆塗のものなどがある。長さ一米六六乃至二米二二。「東大寺」と胡粉書きのものもある。獻物帳所載の百三張は、惠美押勝の亂に出藏。現存の弓は色目が獻物帳と合わない。

北棚

(303) 弓 弦 殘 闕

BOW-STRING, FRAGMENT

(中一)

(304) 柄こも

TOMO A SORT OF ARCHERS' WRIST-GUARD

十五口

(中三)

革製、黒漆塗、芯に獸毛を入れてある。弓を射る時に手頸に着用したものである。

(305) 赤漆杉小櫨

LACQUERED BOX

(中二六)

柄を納める。

(306) 大 刀

(318)

SWORDS (PL. 27)

十四口

口の内

【圖版二七】

(中八)

概ね鎬しのぎ作り、直刀。獻物帳所載の大刀百口は惠美押勝の亂に出藏。現存のもののは(96)(106)(107)の外は色目が獻物帳に合わない。

番號	名 稱	刃	把	鐔	鞘	鞘 尾	號
306	黃金莊大刀	六六・九糎	鮫皮、黃金の押		漆塗、密陀繪	黃 金	一
307	金銀鈿莊唐大刀 (二口)	六四・四糎	鮫皮、斑犀の頭		漆塗、密陀繪、金	鐵、金銀鏤	二、三
308	金銀莊橫刀	三四・七糎	沈 一口把頭後補	檀 香	銀水精莊の鉸具		四
309	金銅鈿莊大刀	五五・〇糎	紫	檀	漆塗、金銀平脱葛	後 補	五
310	金銅莊橫刀	四三・八糎	紫	檀	漆塗	後 補	六
311	金銅莊橫刀	四六・七糎	絲 久	木	後 補		七
312	黒作橫刀	四七・九糎	蕨 經 後	手 補	漆塗、紫皮帶執		八
313	銅漆作大刀	六五・七糎	樺 經 後	鐵	漆塗		九
314	銅漆作大刀	七一・一糎	絲		漆塗		一〇
315	銅漆作大刀	六二・五糎	絲		漆塗		一一

中倉階上

番號	名	稱	刃	把	鐔	鞘	鞘尾	號
331	黒作	大刀	六六・一糎	絲		漆塗		二六
330	黒作	大刀	五九・五糎	牟久		漆塗		二五
329	黒作	大刀	六二・〇糎	絲		漆塗		二四
328	黒作	大刀	五〇・四糎	後	鐵	後補		二三
327	黒作	大刀	六七・九糎 <small>細身</small>	絲	鐵	後補	鐵	二二
326	黒作	大刀	六六・〇糎	絲	鐵	漆塗	鐵	二一
325	黒作	大刀	六五・一糎 <small>兩刃</small>	絲	鐵	皮貼、漆塗		二〇
324	黒作	大刀	六五・一糎	絲	鐵	漆塗	鐵	一九
323	黒作	大刀	六四・六糎	絲	鐵	漆塗	鐵	一八
322	黒作	大刀	六五・〇糎	闕		漆塗		一七
321	黒作	大刀	六三・三糎	絲	後補	漆塗		一六
320	黒作	大刀	五九・九糎	絲	鐵	漆塗	鐵	一五

(320)  
(331) 大

SWORDS

刀 十二口

口二十六  
の内

(中八)

西棚

(319) 赤漆

細長櫝

三合

LACQUERED LONG CHESTS, FOR THE SWORDS

大刀が納めてあつた櫝。

横刀は佩刀というに同じく。  
黒作とは鞘・鍔具のすべて黒漆のもの。

(中二七)

318	黒作	大刀	六五・八糎	絲	鐵	漆塗、布帶執		一四
317	黒作	大刀	六八・二糎 <small>平作り</small>	絲	鐵	漆塗		一三
316	黒作	大刀	五七・四糎	牟久 經後	鐵	後補		一二

七〇

(332) 無  
(339) 莊 刀 八口 二十三口の内

七二

(中九)

番號	名	稱	刃	號
339	無	莊 刀	一 鋒 兩 刃	四 九
338	無	莊 刀	八 六 八 糶	四 八
337	無	莊 刀	五 一 六 糶	三 二
336	無	莊 刀	六 四 三 糶	三 一
335	無	莊 刀	七 三 五 糶	三 〇
334	無	莊 刀	平 作 り	二 九
333	無	莊 刀	七 四 五 糶	二 八
332	無	莊 刀	七 八 二 糶	二 七
			七 九 四 糶	

(340) 漆 葛 胡 祿

LACQUERED QUIVER

箭五十隻を納める。箭は篠竹の籬やがらふたての、二立羽、鐵鏃やじり。「下毛野那須郷今二」の刻文が

(中四ノ三)

ある。胡祿は箭を納めて背に負うもので、つすらふじで組み、皮の帯が着いている。すべてで二十九具(白葛三、漆葛十一、赤漆葛十五、白葛平形四)。獻物帳所載のものは恵美押勝の亂に出藏。現存のものは色目が獻物帳と合わない。

(341) 漆 葛 胡 祿

LACQUERED QUIVER (ARROWS PL. 28)

【箭圖版二八】

(中四ノ四)

「東大寺」と朱書。箭五十一隻を納める。箭は篠竹、三立羽、鐵鏃。麻緒で編んで二連とする。鏃かぶらや箭一隻が添っている。

(342) 漆 塗 胡 祿

LACQUERED QUIVER

(中四ノ二)

附屬の木牌の表に「矢一柄 木工衣縫大市所給如件、裏に「天平寶字八年九月十日」と墨書する。この日附は恵美押勝が叛し、近江に奔つてから四日目に當るが、諸司の官人が武装して亂に備えた様が判る。

(343) 赤 漆 葛 胡 祿

LACQUERED QUIVER

(中四ノ二)

中倉階上

七三

(344) 赤漆葛胡祿  
LACQUERED QUIVER

〔東大寺〕の朱書がある。

(345) 白葛胡祿  
QUIVER

(346) 白葛胡祿  
QUIVER (PL. 28)

斑犀花形の鉸具、斑犀の底、白牙の脚、紫皮の帶執が着いている。箭は玉蟲の翅で飾り、鏑箭は白牙の括牛角喙である。

(347) 白葛胡祿  
QUIVER

平形の胡祿である。

(348) 箭  
ARROWS

胡祿に納めたものと、その外のものとして合せて三千七百三隻。その主な種類別は左のとおりである。

箭	羽	箆	鏃	備考	番號
雌羽山鳥尾	四立	篠竹	鐵		箭一
雁山鳥尾	四立	篠竹	鐵		箭二
雌染尾	四立	篠竹	鐵		箭一
雌染尾	四立	篠竹	鐵		箭一
雌染尾	四立	篠竹	鐵、牛角喙八孔		箭三
雌染尾	四立	篠竹	鐵、青喙六孔		箭三
雌染尾	四立	篠竹	鐵、青喙四孔		箭三
雌染尾	四立	篠竹	鐵、白喙四孔		箭六
雁尾	二立	籬竹	骨		箭六
雁尾	二立	籬竹	鹿角		箭六
未詳	二立	籬竹	鹿角伊多都伎		箭三
				玉蟲飾	
					胡箭一
					箭二
					箭一
					箭一
					箭三
					箭二
					箭一



棚外

(349) 桑木金銀繪鞍

SADDLE, OF MULBERRY-WOOD

(中一二ノ二)

鞍橋は木地に金銀の泥繪鞍は後輪のみにある。錦の鞆、熏章の鞍褥。銀鏤の壺鐙、黒革の鐙靫、金銅の莊。腹帯の端に常陸國茨城郡大幡郷戸主大□□馬麻呂調、一端の墨書があり、國印を捺す。

(350) 牟久木鞍

SADDLE, OF MUKU-WOOD

(中一二ノ二)

居木は檉鞍通に金銀の金具葛形彫りがある。銀鏤の壺鐙、洗皮の鐙靫、金銅の莊。腹帯の端に天平勝寶四年十月の墨書がある。調庸に關するものと思われる。

(351) 黒柿鞍

SADDLE, OF BLACK PERSIMMON WOOD (PL. 29)

(中一二ノ三)

鞍は紫革に鹿角の管を貫く。鞆は錦の縁、鞍褥は錦。鐵の壺鐙。

(352) 黒柿鞍

SADDLE, OF BLACK PERSIMMON WOOD

(中一二ノ四)

製作は前に同じい。腹帯の端に調庸に關係があるらしい「國司史生」「連秋島」等の墨書がある。

(353) 手鉞

TE-BOKO, HAND-SPEARS

(中一〇)

(354) 鉞

HOKO, SPEARS (PL. 30)

三十三枚 【圖版三〇】

(中一一)

刃は三〇纏内外、三角錐形のものや、枝や鈎のあるものが多く、皆袋穂である。柄は三米餘から長いのは四米を超し、多くは木を竹で包んで糸で纏いてあるが、また漆塗のものもあり、鐵または皮の約を着け鐵の鐙がある。

(355) 無

莊 刀

十五口

口二十三内

(中九)

七八

SHORT SWORDS

双の長さ四六纏内外、庖丁形で、鑄作一口の外は平作りである。

HOKO SPEARS (PL. 30)

三十三本 (中九)

SIL HOKO (HANDSHEKING WOOD)

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

平

# 中倉階下

## 中棚

(356) 勅書銅板

COPPER PLATE

明治年間、東大寺から古文書と共に納めたものである。

(中一四)

(357) 詩

序

【圖版三一】

SHIJO, A SCROLL CONTAINING FORTY-ONE PREFACES OF POEMS (PL. 31)

(中三二)

麻紙、紙の標表紙、紫檀金銀繪の軸。標題に「詩序一卷」とあり、王泐の文集で、序文の類四十一首を収める。尾題に「慶雲四年七月廿六日」とある。

中倉階下

七九

(358) 沈香末塗經筒

SUTRA CASE (PL. 32)

【圖版三二】

(中三三)

表面に沈香末を塗り、丁子と相思子(唐小豆)とを嵌して飾り、内側に金銀泥繪の花卉文がある。いま假に前號詩序を納める。

(359) 梵網經

BRAHMARAJA SUTRA

(中三四)

白麻紙、紫紙の標、水精の軸。見返しに金銀山水繪がある。次號の筒に納める。

(360) 檜金銀繪經筒

CYLINDRICAL BOX OF HINOKI-WOOD, FOR THE ABOVE SUTRA (PL. 32)

【圖版三二】

(中三四)

(361) 最勝王經帙

COVER FOR SAISOWOKYO (OTTAMARAJA SUTRA) (PL. 33)

【圖版三三】

(中五七)

緣は茶地錦、裏は緋綾、帯は縮綬。ひらちのひも「依天平十四年、歲在壬午、春二月十四日勅、天下諸國、每塔安置金字金光明最勝王經」の文が編み出されている。

(362) 錦緣竹帙

BAMBOO CHITSU

(中五八)

(363) 紅牙撥鏤尺

IVORY FOOTRULES

四枚

(中五一)

(364) 斑犀尺

PHINOCEROS-HORN FOOTRULE

(中五二)

目盛の刻線に朱を填め、金箔が押ししてある。

(365) 未造了牙尺

UNFINISHED IVORY FOOTRULES

(中五三)

仕上げてないもの。

(366) 漆箱

LACQUERED BOX

以上七枚の尺を納める。

中倉階下

(367) 木

MEASURING STICK

尺

銀泥で花蝶を描いている。

八二

(中五三)

(368)

天平寶物墨

SUMI, "TEMPYO TREASURE" INK-STICK

題箋に「開眼、法皇後白河法皇用之、天平寶物」とある。

(中三六)

(369)

天平寶物筆

BRUSH, "TEMPYO TRASURE" WRITING BRUSH

假斑竹の管(軸)。「文治元年八月廿八日開眼、法皇用之、天平筆」の銘がある。

(中三五)

(370)

未造了沈香木畫筆管

UNFINISHED BRUSH HANDLE

竹の管に沈香を貼り、金泥で界線を施し、縁を木畫で飾り「沈香壹尺八寸四歩」と墨書。

(中四〇)

(371)

筆

WRITING BRUSHES (Pl. 34)

十七枚

【圖版三四】

(中三七)

所謂雀頭筆で、毫穂が短く、紙を巻いて芯にしてある。帽は傘を閉じた形。

號	管	帽	管頭	毫
一	梅羅竹、金莊	斑竹、牙、紫檀、銀莊	牙	存
二	沈香・斑竹、樺纏	斑竹、紫檀	牙	存
三	斑竹、銀莊	斑竹、紫檀	牙	存
四	斑竹	斑竹、紫檀	牙	存
五	斑竹、牙莊	斑竹、牙、銀莊	牙、銀莊	存
六	斑竹、銀莊	斑竹、牙、銀莊	牙	存
七	豹文竹	篠竹、樺纏	牙	存
八	斑竹	斑竹		存
九	斑竹	篠竹、樺纏		存
一〇	斑竹	煤竹		存

中倉階下

八三

一七	一六	一四、一五	二一、二三
篠竹	假斑竹	假斑竹	斑竹
篠竹	篠竹	假斑竹	篠竹
存			存

假斑竹は斑文を作つて斑竹になぞらえた竹である。

(372) 白 葛 箱

WHITE TSUZURA BOX

(中三八)

次號の箱と共に前號の筆を納める。

(373) 漆 皮 箱 三合

LACQUERED HIDE BOXS

(中三九)

(374) 墨 十四挺 【圖版三五】

SUMI, INK STICKS (PL. 35)

(中四一)

十二挺は船形、二挺は筒形。一挺に「華烟飛龍皇様貞家墨」(背に「開元四年丙辰秋作、貞□□□□の朱書」、一挺に「新羅楊家上墨」、また一挺に「新羅武家上墨」の陽

刻がある。

(375) 白 墨

WHITE SUMI

(中四二)

篠竹で挟んである。

(376) 假 斑 竹 箱

IMITATION MOTTLED BAMBOO BOX

(中四三)

黒柿に假斑竹を貼つてゐる。次號の箱と共に墨類を納める。

(377) 赤 漆 葛 箱

LACQUERED TSUZURA BOX (PL. 36)

(中四四)

菱文を編んだ上に銀泥の繪がある。覗は羅である。

(378) 竹 帙 四枚

CHITSU MADE OF BAMBOO STRIPS

(中五八)

(379) 經 帙 七枚

CHITSU

(中五九乃至六三)

中倉階下

八五

八四

華嚴經論竹帙、大乘雜經斑藺帙、小乘雜經織成帙がある。

(380) 未造着軸 三百二十枚

(中五五)

UNUSED JIKU, STICKS READY TO BE ATTACHED TO SUTRAS

經卷など卷子本の軸で、瑠璃・彩繪漆の端がついている。

(381) 軸端

(中五六)

JIKU ENDS

卷軸の端で、瑠璃・木・水精瑠璃・彩繪漆のものがあり、對になるもの五十七、對をしないもの五十八。

(382) 經帙牌 十二枚

(中六五)

TAGS FOR SUTRA CHITSU

經卷の帙につけた牌で、牙と木とがある。

(383) 金字牙牌

(中六四)

IVORY TABLET

牌面に「平城宮御宇中太上天皇(元正)恒持心經」背に「天平勝寶五年歲次癸巳三

月廿九日」とある。(208)の全淺香と同じく、この日の仁王會の獻納と思われる。

心經は佚した。

(384) 青斑石硯 【圖版三七】

(中四九)

SUZURI, INK STONE (PL. 37)

硯は陶製の猴膝硯、紫檀木畫の床に据えてある。

(385) 青斑石鼈合子 【圖版三八】

(中五〇)

STONE GOSU (PL. 38)

身は八花形、鼈の眼は瑠璃。

(386) 獻物牌 五枚

(中六六)

WOODEN TAGS ATTACHED TO DEDICATED ARTICLES

黃楊木四枚、「藤原朝臣袁比表(良賣)獻舍那佛(裏)」「尼善光」「尼信勝」「橘夫人」の墨書、檜の牌に「藤原朝臣百能」の墨書がある。

(387) 綠金箋 三張

(中四八)

PETAL-SHAPED PAPER

中倉階下

金塵綠紙(綠紙の一面に金砂子を撒いたもの)を蓮瓣形に截つたもので、散華に供するものである。

(388) 吹 繪 紙 三十張 (中四六)

FUKIYE-GAMI: PAPER WITH PICTORIAL DESIGNS IN RESERVE

白紙に草木花鳥の文様を吹繪に抜いたもので、藍色と褐色の二様がある。

(389) 色 麻 紙 十九卷 (中四七)

HEMP-PAPER

白碧黄赤等、一千三百餘張。

(390) 赤 漆 桐 小 櫃 (中二〇〇)

LACQUERED SMALL CHEST

棚 外

(391) 黄 熟 香 (中一三五)

O-JUKKO, INCENSE WOOD

沈香の一種。世に蘭奢待と稱する。

(392) 紫皮裁文珠玉飾刺繡羅帶殘闕 (中九五)

EMBROIDERED FRAGMENTS

一つは羅の帯の端と縁の處々に紫皮花形の裁文を着け、雑色の組に珠玉を飾つて垂飾としたもの。藕纈紫綾の裏。一つは藕纈絶と綠綾とを合縫した帯。一つは羅帯に山水花鳥を刺繡したもので眞綿の芯が入っている。

(393) 雜 帶 殘 闕 (中九三)

BRAIDED SASHES

雑色緞綬の帶、雑色の組緒等殘闕十四點。

北  
棚

(394) 瑠璃杯  
DARK BLUE GLASS CUP

(中七〇)

深碧瑠璃の高足盃、外側に環形の浮文がある。金銀の座。  
本號から(401)まで(427)の漆小櫃に納めたもの。

(395) 白瑠璃瓶  
GLASS EWER

(中六九)

注口と把手とがある。

(396) 瑠璃壺  
BLUE GLASS JAR

(中七一)

紺色で垂壺形。

(397) 白瑠璃碗  
GLASS BOWL (PL. 39)

【圖版三九】

(中六八)

深鉢形で僅かに褐色を帯び、外側は切子風の龜甲文。

(398) 綠瑠璃十二曲長杯  
GREEN GLASS DISH (PL. 39)

【圖版三九】

(中七三)

細身の深皿形で、底裏が圓く、外側に兎形花葉形の文様がある。

(399) 玉長杯  
JADE CUP

(中七三)

底裏は圓く。

(400) 玉器  
JADE IMPLEMENT

(中七四)

槌頭形で、長方形の孔が通っている。

(401) 犀角杯  
RHINOCEROS-HORN CUP

(中七五)



犀角の尖頂部で用い、角の底部を刳つて杯としたもの。

(402) 瑪瑙杯 二口

AGATE DISHES

(中七七)

大きい方は木の葉形で、外側に葉柄、内側に葉脈を刻している。小さい方は卵形で、貼紙に「瑪瑙杯一口 口周九寸七分」とある。

(403) 白瑠璃高杯

WIDE SHALLOW GLASS VESSEL

(中七六)

淡い萌黄色を帯びる。

(404) 水晶玉 五枚

CRYSTAL BALLS

(中七八)

白三枚、紫二枚、各大小がある。

(405) 漆小櫃

SMALL LACQUERED CHEST

(中七九)

黒漆四脚几に載つてゐる。木牌がついていて、表に「納 瑪瑙杯二口 水晶玉

五枚 白瑠璃高杯一口 雜香六裹 練金十一枚裏に「天平勝寶四年四月九日 第一櫃」と墨書がある。(402) から (404) の品はこの題記に當るものであろう。

(406) 裏衣香 九裹

EBIKO, USED FOR SCENTING CLOTHES

(中八〇)

沈香・白檀・丁香・青木香等を混和したもので白絶の包み裂に「神護景雲二年四月 廿六日」の墨書がある。次號の箱に納めてある。

(407) 漆皮箱

LACQUERED HIDE BOX

(中八一)

(408) 銀合子

SILVER BOWL WITH COVER

(中八三)

身の底に「六兩二分小」の墨書。蓋は銅で、銀のつまみ裏に「五兩三分小」の墨書がある。

(409) 黒柿蘇芳染六角臺  
SMALL STAND OF BLACK PERSIMMON WOOD

(中八五)

(410) 黒柿蘇芳染小櫃  
SMALL BOX OF BLACK PERSIMMON WOOD

内側に香木を樹皮のように貼つてある。

九四

(中八四)

(411) 赤漆櫨木小櫃

SMALL BOX OF ZELKOWA AND LACQUERED RED

蓋の貼紙に「不知獻者」銀合子一合 銀錠一口 居黒柿臺 八曲坏二口 十  
曲坏二口 銀盤一口 居黒柿櫃 天平勝寶四年四月九日」とある。(408)の銀合  
子以下二點はこの題記中のものである。

(中八三)

(412) 魚 骨 笏

SHAKU OF FISH-BONE

「宮 延喜五年五月廿日□」と墨書。

(中八七)

(413) 木 笏

WOODEN SHAKU

(中八六)

(414) 紺玉帶 殘 闕

GIRDLE FRAGMENTS

(中八八)

革帶五片に分斷、群青色の石はいわゆる瑠璃(ラピスラズリ)の原石で、巡方四枚、  
丸柄六枚、鏝一枚。次號の箱に納める。ラピスラズリはアフガニスタン産のも  
のが有名である。

(415) 螺 鈿 箱

ROUND BOX OF WOOD LACQUERED AND INLAID WITH MOTHER-OF-PEARL (PL. 40)

【圖版四〇】

黒漆塗、丸形、印籠蓋。蓋甲に金平脱唐花文、これを繞ぐる螺鈿嵌玉の花文は蓋  
と身の側面に及んでいる。覗は雲網錦。

(416) 斑犀帶 殘 闕

GIRDLE FRAGMENTS

(中八九)

(417) 革 帶

GIRDLE FRAGMENTS

二條

(中九〇)

金銅の巡方丸柄。一條の鈿具に「東大寺」と刻銘がある。

中倉階下

九五

(418) 柳

箱 【圖版四一】

WICKER BASKET-WORK BOX (PL. 41)

前二號の帶を納める。

九六

(中九一)

(419) 漆

胡 樽

一雙

LAQUERED BARRELS

(中一六六)

左右がある。沙漠の旅行に水を入れて、駱駝の兩側につけたものといわれる。

(420) 漆

挾 軾

ARM-REST

(中一六七)

(421) 白

純 裏 鎮 子 二枚

LONG WEIGHTS

(中一六八)

木を心にして真綿を巻き、白純でつつんである。

(422) 銅

薰 爐

COPPER INCENSE BURNER

(中六七)

北倉の銀薰爐(51)と同じ仕掛けの薰爐。

(423) 四

重 漆 箱

CHEST OF DRAWERS

(中一五〇)

四段抽斗の小簞笥形、二重目から下は順に内側の掛金を外さなければ開かない。

(424) 白

石 火<sup>か</sup> 舎<sup>しゃ</sup>

一雙

MARBLE BRAZIER

(中一六五)

佛前に香を焚くうつわ。金銅獅子形の脚と丸環。石は大理石。

(425) 金

銅 火 舎

GILT BRONZE BRAZIER

(中一六五)

附屬の木牌の表に「定坐火爐壹合奩肆合 右依員檢納如件」裏に「五月廿三日史

生河内豊繼」と墨書。

(426)

白 銅 火 舎

“WHITE BRONZE” BRAZIER

(中一六五)

底に「東大寺」の墨書がある。

中倉階下

九七

(427) 漆 小 櫃

LACQUERED SMALL BOX.

(394) — (401) の品を納めたもので漆小几に据える。

九八

(中九二)

(428) 瑇瑁螺鈿八角箱

OCTAGONAL BOX OF WOOD COVERED WITH TORTOISE-SHELL

(中一四六)

(429) 榿のき箱

CAMPHOR-WOOD BOX

(中一五八)

床は新造。

(430) 白檀八角箱

EIGHT-LOBED BOX

(中一五九)

床脚の底裏に「吉祥堂」と墨書。

(431) 紫檀小櫃

SMALL SHITAN-WOOD BOX

(中一四四)

床は新造。

(432) 刀

TOSU (PL. 42)

子

六十口 【圖版四二】

(中一三一)

號	種別	把	鞘	把頭、鞘尾、帶、執の莊	備考
一	大刀子	青石	黒漆	金銀水精(多)	把口烏犀
二	大刀子	斑犀	黒漆	銀精(多)	紫革帶執殘闕
三	雙刀子	斑犀	黒漆	水精(多)	全長三七糎
四	雙刀子	白牙樺纏	玉木	金銀	刃本金鏤、組緒殘闕
五	雙刀子	沈香	沈香	金銀	刃本
六	雙刀子	沈香	沈香	金銀	木牌墨書「橋夫人奉物」
七	雙刀子	犀角	白銀	金銀	刃本
八	雙刀子	斑犀	金銀	金銀	刃本
九	雙刀子	斑犀	金銀	金銀	刃本
一〇	雙刀子	琥碧	金銀	金銀	刃本
一一	烏犀樺纏	烏犀樺纏	瑠璃水精	金銀	刃本
一二	沈香金銀繪	沈香金銀繪	沈香	金銀	刃本
一三	水角金銀繪	水角金銀繪	沈香	金銀	刃本
一四	沈香樺纏	沈香樺纏	斑竹	金銀	刃本

中倉階下

九九

35433

四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一	三〇
					小刀	小刀	雙小刀	小刀	小刀	小刀	三子鋸	三子鋸	三子鋸	三子鋸
斑犀	斑犀(後補)	白牙	白犀	斑犀	烏犀	白犀	白犀	白犀	白犀	白犀	白犀	白犀	斑犀	黑犀
斑犀	白牙	白犀	白犀	紅犀	白犀	白犀	水犀	水犀	水犀	水犀	白犀	白犀	黑犀	白犀
	牙	牙	牙	牙		角	角	角	角	角	角	角	角	角
犀	鑲	鑲	牙	鑲	犀	犀	(後補)	角	角	角	(後補)	角	角	角
	金	金										金	金	
		銅	銀									銅	銀	
雙										全	刀			
										長	子			
										五	後			
										六	後			
										糶	補			

二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五
三合刀子	四合刀子			雙	雙	雙	雙	鉤						雙
水角	棗梅	紅梅	黃牙	白牙	斑犀	紫檀	黑柿	白犀	牟(後補)	白犀	斑犀	沈香	黑石	斑犀
黑角	棗梅	紅梅	紫牙	白牙	沈香	斑犀	黑柿	白犀	牟(後補)	白犀	綠犀	金薄	白樹	樹皮
漆	梅	鑲	牙	牙	繪	犀	柿	犀	木	牙	鑲	貼	銅	塗
	黃	白			金	金		金	白	金	白	金	金	金
	金(後補)	銀						銀(後補)	銀(後補)	銅(後補)	銀	銀	銀	銀
把口	把口	把口			組	組	雙	雙						組
銀	鐵	銀			緒	緒								緒
漆	銀	銀			殘	殘								殘
鑲	鑲	鑲			闕	闕								闕

• 32499

四五	斑犀	紅牙撥鏤	銀
四六	斑犀	彩繪瑇瑁貼	金
四七	牟久木犀	牟久木犀	銅
四八	小刀子	白犀	烏犀

種別の欄、雙とあるのは對をなす刀子を示す。

(433) 漆皮箱  
LACQUERED HIDE BOX (中 九四)

(434) 漆皮箱  
LACQUERED HIDE BOX (中 一三六)  
一合の題箋に「寺入」とある。

西 棚

(435) 紫檀木畫花文箱  
SHITAN-WOOD BOX WITH WOOD INLAY (中 一四五ノ一八)

(436) 紫檀箱  
SHITAN-WOOD BOX (中 一六〇)  
黄楊木に紫檀を貼り、花卉雲鳥を木畫であらわす。身は新造。

(437) 銀平脱箱中蓋  
TRAY IN SILVER HEIDATSU (中 一六四)  
紫檀を貼り、白牙の界線を施し、内面に木畫の窠文がある。身は新造。

(438) 金銀繪漆合子  
LACQUERED WITH PAINTINGS IN GOLD AND SILVER (中 一四一)

身は新造。

一〇四

(439) 漆合子 二合

(中一四〇)

LACQUERED BOXES WITH LIDS

(440) 金銀繪木理箱

(中一四九)

BOX WITH GRAIN OF WOOD MARKED IN GOLD AND SILVER

朽木の寄木、界線を金泥で描く。縁と床脚の小花文は金銀泥畫。

(441) 朽木菱形木畫箱

(中一四八)

BOX, COVERED WITH HALF-DECAYED MOTTLED PERSIMMON-WOOD

斑柿の蝕みたものを菱形に寄木した小櫃で、床脚は紫檀。

(442) 沈香龜甲形木畫箱

(中一四二ノ一一)

SMALL RECTANGULAR WOODEN BOX

沈香を龜甲形に貼つて、黄金の界線を施している。

(443) 檳榔木畫箱

(中一四七)

RECTANGULAR WOODEN BOX, COVERED WITH ALL OVER WITH BETAL-NUT PALM

菱形の寄木貼、縁は黒檀、内面は赤地に小花文を描く。

(444) 沈香金繪木畫水精莊箱

(中一四二ノ一〇)

RECTANGULAR WOODEN BOX, COVERED ALL OVER WITH JINKO AND SHITAN-WOOD

沈香紫檀貼、木畫の界、金銀泥の繪。また水精板を嵌して、下に彩繪花卉文を置く。床脚は牙で、葡萄唐草の透彫である。内面は黒柿蘇芳染に金繪。

(445) 紫檀木畫界箱

(中一四五ノ一七)

RECTANGULAR SHITAN-WOOD BOX, HAVING BORDERS IN IVORY

黄楊材、木畫の界、劃内に紫檀を嵌め、内面にも木畫の界を施している。

(446) 沈香<sup>いしだたみ</sup>登形木畫箱

(中一四二ノ一二)

RECTANGULAR WOODEN BOX

中倉階下

一〇五

沈香を整形に寄木し、木畫の界線に紫檀を貼る。床脚は紺牙撥鏤。蓋裏にも木畫の界線がある。

(447) 密 陀 繪 皮 箱 (中一三九)

LACQUERED BOX WITH LID

乾漆の作。蓋身底裏とも朱彩で唐花葛形を描き、内面は朱地に銀泥の小七曜文を散らしてある。

(448) 黒柿蘇芳染金銀山水繪箱 【圖版四三】 (中一五六)

BLACK PERSIMMON-WOOD BOX STAINED WITH SAPAN JUICE AND

DECORATED WITH A PAINTING IN GOLD AND SILVER (PL. 43)

身は一部を除き新造。

(449) 金 銀 平 脫 皮 箱 二合 (中一三八)

LACQUERED HIDE BOXES, DECORATED WITH GOLD AND SILVER

鳳形を中心に花鳥をあらわす。

(450) 漆 箱 四合 (中一六一)

LACQUERED WOODEN BOXES

(451) 密 陀 彩 繪 唐 花 文 小 櫃 (中一四三ノ一三)

LACQUERED BOX DECORATED WITH LITHARGE PAINTING IN CONVENTIONAL FLORAL DESIGN

(452) 密 陀 彩 繪 箱 (中一四三ノ一五)

LACQUERED BOX DECORATED WITH LITHARGE PAINTING

(453) 密 陀 彩 繪 忍 冬 鳳 文 小 櫃 【圖版四四】 (中一四三ノ一四)

LACQUERED BOX DECORATED WITH RED AND YELLOW LITHARGE PAINTING (PL. 44)

蓋の題箋に「納丁香青木香 會前 東大寺」とある。内部は二區に分かる。

(454) 金 銀 繪 漆 皮 箱 (中一三七)

LACQUERED BOX DECORATED WITH PAINTINGS IN GOLD AND SILVER

(455) 黒 柿 兩 面 厨 子 (中一六一)

CABINET OF BLACK PERSIMMON WOOD

中 倉 階 下



背面にも兩開きの扉がある。棚は一段。

(456) 柿 厨 子

CABINET OF PERSIMMON WOOD

(中一六三)

(457) 漆 十八足几

LACQUERED TALL TABLE

(中一九八)

(458) 蘇芳地金銀鼓樂繪箱

【圖版四五】

(中一五二ノ二六)

BOX, STAINED WITH SAPAN JUICE AND DECORATED WITH PAINTINGS  
IN GOLD AND SILVER (PL. 45)

蓋表に童子鼓樂の圖、内面は淺紅粉地に胡粉の小花文。底裏は蘇芳地に金銀泥の蝶鳥を描き、「東小塔」の墨書がある。

(459) 緑 地 彩 繪 箱

(中一五五)

BOX DECORATED WITH PAINTINGS OF FLOWERS AND INSECTS ON  
GREEN GROUND

草花蝶の繪。縁は金地假作瑠璃。床脚は金地に墨繪唐草文。(461)と對になる。

(460) 粉 地 花 形 方 几

(中一七七ノ二)

LOW SQUARE STAND, PAINTED WITH GOFUN

背は緑地、雲綯彩繪菊葉形の脚。

(461) 蘇 芳 地 彩 繪 箱

(中一五三)

BOX COVERED WITH GOLD LEAF AND MARKED TO IMITATE TORTOISE-SHELL

草花の繪、縁は金地假作瑠璃。床脚は金地に墨繪唐草文。

(462) 蘇芳地金銀繪花形方几

(中一七七ノ三)

LOW STAND DECORATED WITH PAINTINGS IN GOLD AND SILVER

背は緑地。雲綯彩繪菊葉形の脚。褥が添う。白椽綾縁は錦裏は綠纈纈絶。

(463) 粉 地 彩 繪 花 形 几

(中一七七ノ九)

LOW STAND DECORATED WITH A FLORAL DESIGN ALONG THE EDGE

背に「東塔」の朱書がある。褥は白綾、黄絶の裏。

(464) 黑柿蘇芳染金繪長花形几

(中一七七ノ四)

LOW STAND OF BLACK PERSIMMON WOOD, SAPAN-STAINED ALL OVER AND

DECORATED WITH DRAWINGS IN GOLD  
背に「戒壇」と墨書。褥は白絶。

(465) 彩繪長花形几

LOW STAND DECORATED IN UNGEN IN FLORAL PATTERN

(中一七七ノ一八)

緑地の背で八脚。褥は白綾、緑纈纈絶の裏。

(466) 黄楊木几

LOW STAND OF PLAIN TSUGE-WOOD

(中一七七ノ一)

長方形の隅を切つた八角形で、金銅帖角が打つてある。床脚八。褥は緑綾雲  
綯錦の縁、緑纈纈絶の裏。几背と褥裏に「大佛殿」と墨書。

(467) 碧地彩繪几

LOW STAND DECORATED WITH A CONVENTIONAL DESIGN ON A BLUE  
GROUND

(中一七七ノ一五)

兩脚。題箋に「大佛殿獻物等」の文字がある。褥は白綾、錦縁、緑纈纈絶の裏。「長  
一尺七寸、廣一尺二寸、以神護景雲二年四月三日、幸行、獻大佛殿、東大寺」の墨書があ

る。

(中一七七ノ一四)

(468) 粉地木理繪長方几

LOW STAND WITH ITS UNDERSIDE PAINTED GREEN, AND WITH ITS EDGES  
MARKED WITH SAPAN JUICE TO IMITATE GRAINS OF WOOD

粉地に蘇芳で木理を描く。背は緑地、兩脚は粉地に金繪。褥は白椽綾、錦の縁、  
緑纈纈絶の裏。「長一尺九寸八分、廣一尺□寸□分、<sup>(東)</sup>□大寺、獻大佛殿」等の文字があ  
る。

(中一五二ノ二七)

(469) 蘇芳地金銀花鳥繪箱

BOX, STAINED WITH SAPAN JUICE AND DECORATED WITH PAINTINGS  
IN GOLD AND SILVER

粉地金繪の床脚。「東小塔」の墨書がある。内面白緑<sup>びやくろく</sup>地に胡粉繪の小花文。底  
裏に、金銀泥で龍鳳雲鳥蝶を描く。

(中一五二ノ二八)

(470) 蘇芳地金銀花鳥繪箱

BOX OF WOOD STAINED WITH SAPAN JUICE AND DECORATED WITH A  
PAINTING IN GOLD AND SILVER

床脚なし。内面は粉地。

(471) 粉地彩繪箱

(中一五七)

BOX DECORATED WITH CONVENTIONAL FLORAL PATTERN PAINTED IN GREEN, BROWN, WHITE AND PURPLE

浅紅地に彩繪の花文。床脚は雲綯彩色、内面は碧地、蓋裏は碧地に小花文を散らす。

(472) 粉地彩繪方几

(中一七七ノ一〇)

LOW STAND WITH RED BLOSSOMS PAINTED ALL ALONG THE EDGES

四脚。背と貼紙に「干手堂」の墨書がある。褥は白綾、錦の縁、緑纈纈絶の裏。

(473) 碧地金銀繪箱

(中一五一)

BOXES WITH PAINTINGS IN GOLD AND SILVER UPON THE GREEN BACKGROUND

二合同形同大、花鳥文であるが、圖様は異なる。内面は共に浅紅地、底裏に「干手堂」と墨書がある。

(474) 黄楊木金銀繪箱

(中一五四)

BOX OF TSUGE-WOOD DECORATED WITH FLORAL PATTERNS IN GOLD AND SILVER

棹に金銀泥で草花鳥を描く。白牙の界線。底裏に「東小塔」の墨書がある。

(475) 粉地銀繪花形几

(中一七七ノ七)

LOW STAND DECORATED WITH FLOWERS, BIRDS AND INSECTS PAINTED IN SILVER

洲濱形、四脚、背に墨書「東小塔」。褥は白羅、雲綯錦の縁、緑纈纈絶の裏。

(476) 投壺

【圖版四六】

(中一七〇)

TOKO, A GILT COPPER VASE (PL. 46)

佐波理鍍金。全面に山水・人物・花・鳥・獅子・雲等を彫る。

(477) 投壺

壺

矢

二十三隻 【圖版四六】

(中一七一)

TOKO DARTS, FOURTEEN OF THEM ARE IN IMITATION SPOTTED BAMBOO, AND NINE BOUND WITH BIRCH BARK STRIPS (PL. 46)

假斑竹と樺纏とがある。先きは球になつてゐる。

投壺は「つぼうち」「つぼなげ」といふ、壺に矢を投げ込んで、その入り方で勝敗を決める。禮記に投壺篇があり、投壺は禮器であつたが、また遊戯具でもあつた。漢以來、次第に盛んになつたようである。

南 棚

(478) 籠

箱はこ

KOBAKO: BASKET BOX

(中一七六)

(479) 籠

箱 二合

KOBAKO: BASKET BOXES

(中一七六)

蘇芳地金銀繪の床脚。

碧地彩繪の床脚。蓋は棧木を組んで、羅を張り、雲綯錦を纏いた痕跡がある。

(中一六九)

(480) 漆

繪 彈 弓

【圖版四七】

DANKYU, A BOW WHICH SHOOTS BALLS INSTEAD OF ARROWS (PL. 47)

表に鼓樂技曲の圖を描く。弦は竹、把は紫皮、雑色の組緒を纏く。彈弓の技は傳わらず、弦で丸たまのようなものを弾く遊戯であらう。

(中一六九)

(481) 漆

彈 弓

DANKYU LACQUERED

(中一七三)

(482) 木畫螺鈿雙六局

TAGI-BAN USED IN THE GAME OF FLIPPING GO PIECES WITH THE FINGER TIPS

花欄かりんの材、側面に沈香を貼る。本品は彈碁盤たきばんであつて、彈碁は、いしはじきともいふ、盤上で碁子を弾いて勝負する技である。

(483) 榧 雙 六 局

TAGI-BAN

(中一七二)

彈碁盤である。

中倉階下

(484) 沈香木畫雙六局

GAMING BOARD OF PERSIMMON WOOD

一一六

(中一七二)

黒柿沈香貼り、牙の界線。一種の遊戯具であろうが不詳。

(485) 紫檀木畫雙六局

SUGOROKU BOARD OF SHITAN-WOOD

(中一七二)

(109) の雙六局と同形である。

(486) 雙六筒

SUGOROKU DICE BOX OF SHITAN-WOOD, PAINTED IN GOLD AND SILVER

(中一七三)

雙六の頭を振り出すもので、紫檀に金銀繪を施し、口と底に銀が張つてある。

(487) 桑木木畫碁局

GO BOARD COVERED WITH SMALL PIECES OF MULBERRY-WOOD

(中一七四)

界線は角、花形の眼、螺鈿と黄牙紺牙撥鏤とで飾る。床脚は牙。

(488) 桑木木畫碁局

GO BOARD

(中一七四)

角の界線、花形の眼、紫檀と花欄などで飾る。床脚は牙。

(中一七五)

(489) 金銀繪碁子合子

二合

GOSU FOR GO PIECES PAINTED IN GOLD AND SILVER

杉材の様に金銀泥で花鳥を描く。

(中一七五)

(490) 白葛箱

三合

TSUZURA BOXES

(中一三二)

一合は題箋に「納雑帶並刀子」また身と蓋の縁に「東大寺」會前の墨書がある。一合には身と蓋に「東大寺花筥」と墨書がある。

(491) 柳箱

WICKER BASKET

(中一三三)

(492) 斑蘭箱蓋

MOTTLED RUSH BOX-LID

(中一三四)

蘇芳染と黄染の蘭を交えて文様を編んでいる。

中倉階下

一一七

(493) 粉地金銀繪八角几

OCTAGONAL STAND WITH GOLD AND SILVER PAINTINGS

八花形で四脚。背に「吉祥堂」と墨書。

一一八

(中一七七ノ五)

(494) 粉地金銀繪八角長几

LONG EIGHT-LOBED STAND PAINTED IN GOLD AND SILVER

長八花形で六脚。面は緑地、背に「東小塔□□」と墨書。

(中一七七ノ六)

(495) 繪銀繪長方几

RECTANGULAR STAND OF HINOKI-WOOD

縁、床脚ともに粉地の銀繪。

(中一七七ノ八)

(496) 粉地彩繪八角几

EIGHT-LOBED STAND

八花形で、面背ともに緑地、縁と床脚は雲縹の彩繪。

(中一七七ノ一一)

(497) 粉地彩繪長方几

RECTANGULAR STAND

面に木理を描き、背は科文。四脚。

(中一七七ノ一二)

(498) 粉地彩繪長方几

RECTANGULAR STAND

(中一七七ノ一三)

(499) 假作黒柿長方几

RECTANGULAR STAND STAINED TO IMITATE BLACK PERSIMMON-WOOD

金銅の帖角を打ち、鍔を着く。四脚。

(中一七七ノ一六)

(500) 緑地金銀繪長方几

RECTANGULAR STAND

四脚、脚は粉地金銀繪。

(中一七七ノ一七)

(501) 金銀繪長花形几

OBLONG STAND

洲濱形で六脚。面は緑地、背は蘇芳地、縁は粉地に金銀繪。背に「東小塔」の墨書がある。

(中一七七ノ一九)

(502) 漆 八角 几

LACQUERED STAND

八花形。脚は新造。

(中一七七ノ二〇)

(503) 牟久木縁檜方几

SQUARE STAND

縁と脚は牟久木。四脚。

(中一七七ノ二一)

(504) 黒柿縁檜方几

SQUARE STAND

脚は新造。

(中一七七ノ二二)

(505) 檜 長 几

OBLONG STAND OF HINOKI-WOOD

縁は榎に銀繪。床脚は新造。

(中一七七ノ二五)

(506) 榎 長 几

RECTANGULAR STAND OF KAYA-WOOD

(中一七七ノ二六)

(507) 蘇 芳 地 六角 几

HEXAGONAL STAND STAINED WITH SAPAN-WOOD JUICE

六花形で、背は緑地、床脚は假作瑠璃。縁に銀鍍六箇を着ける。

(中一七七ノ二七)

(508) 牟久木縁檜八角長几

OBLONG STAND OF MUKU-WOOD

脚は新造。

(中一七七ノ二三)

(509) 染木縁檜八角長几

OBLONG STAND

縁と床脚は紫檀色の染木、背は緑地である。

(中一七七ノ二四)

棚 外

(510) 斑犀帶殘闕

SPOTTED RHINOCEROS-HORN FRAGMENTS, ORIGINALLY ORNAMENTS ON A GIRDLE

(中一二二)

(511) 牙げの

IVORY COMBS

梳くし

三枚

(中一二三)

(512) 水

ROCK CRYSTAL BALLS

精玉

二十九枚

(中一二七)

(513) 琥

AMBER BALLS

碧玉

四枚

(中一二九)

(514) 琥碧長合子殘闕

AMBER GOSU

(515) 魚

FISH-SHAPED OBJECTS

形

六枚

(中一二八)

綠瑠璃大小三枚、碧瑠璃・黃瑠璃・水精各一枚。

(516) 貝

PIECES OF SHELL INLAY

玦

二十六枚

(中一二四)

樂器等の螺鈿に使用したものが。

(517) 貝

SHELL RINGS

環

五枚

(中一二五)

(518) 牙

IVORY PIECES

玦

二枚

(中一二六)

(519) 白

WHITE BRAIDED SASH

組帶

(中九六)

(520) 犀

RHINOCEROS-HORN IN FISH-SHAPE

角魚形

一雙

(中九七)

金泥で鱗を描いている。

(521) 斑

SPOTTED RHINOCEROS-HORN GOSU

犀合子

三合

(中九八)



一合は犀角の形で蓋は紫檀花形。二合は方形。

(522) 水精玉

ROCK CRYSTAL BALL

(中九九)

(523) 瑪瑙玉

AGATE BALL

(中一〇〇)

(524) 雑色緞綬帶

BRAIDED BELT

(中一〇一)

(525) 水精長合子殘闕

ROCK CRYSTAL GOSU

(中一〇二)

身は新造。

(526) 黄楊木把鞘刀子 一雙

TOSU WITH PLAIN TSUGE-WOOD HILTS AND SHEATHS

(中一〇三)

双本に金鏤がある。前號の水精長合子と共に(524)の帯につながれている。

(527) 間縫刺繡羅帶殘闕

EMBROIDERED RA SASH

(中一〇四)

花鳥を刺繡し、また金銀泥で描く。

間縫は變り裂をひとつ間に縫い合わせたものをいう。

(528) 琥碧魚形

FISH-SHAPED PIECE OF AMBER

(中一〇五)

銀鎖でつなぎ、雑色の組が着いている。前號の帯につないであつたもの。

(529) 瑠璃魚形

FISH-SHAPED GLASS

(中一〇六)

(530) 水精玉

ROCK CRYSTAL BALLS

(中一〇七)

五枚

(531) 獻物牌

DEDICATION TAGS

二枚

(中一〇八)

木牌。一枚に「從三位藤原朝臣吉日」、一枚に「橘少夫人」とある。

中倉階下

(532) 刺繡羅帶殘闕

EMBROIDERED RA SASH

盤形S-shapeの刺繡を施して緞ひょうちの綬ひもにかたどつてある。

(533) 小 尺 五枚

SMALL MEASURING STICKS

一枚は斑犀、長二寸。二枚は組緒でつないだ碧瑠璃と黄瑠璃で、長各三寸。一枚は碧瑠璃、長二寸五分。一枚は黄瑠璃、長三寸。

(534) 紫檀金銀繪小合子

MINIATURE GOSU OF SHITAN-WOOD, WITH LID SHAPED LIKE A PAGODA

塔形の鏡形。

(535) 紫檀銀繪小墨斗

MINIATURE SUMITSUBO CARPENTER'S TOOL FOR MAKING LINES

(536) 彩繪水鳥形 二枚

FIGURES OF WATER FOWL

翼のところに、かわせみの羽を貼つてゐる。

(537) 撥鏤飛鳥形 三枚

SHAPES OF BIRDS

緑牙のもの一枚、紫牙のもの二枚。糸とおしの孔がある。

(538) 小 香 袋 七口

INCENSE BAGS

福豆形で、表裂に羅を用いたものと、細布を用いたものがある。

(539) 雑色組縁飾殘闕

BRAIDED BORDER OF VARIOUS COLOURS

眞珠丁子・木彫金繪龜の子をつなぐ。

(540) 獻物牌

DEDICATION TAG

木牌。表に「藤原朝臣久米」裏に廻つて「刀自賣獻舍那佛」とある。

(541) 繪

紙 二卷

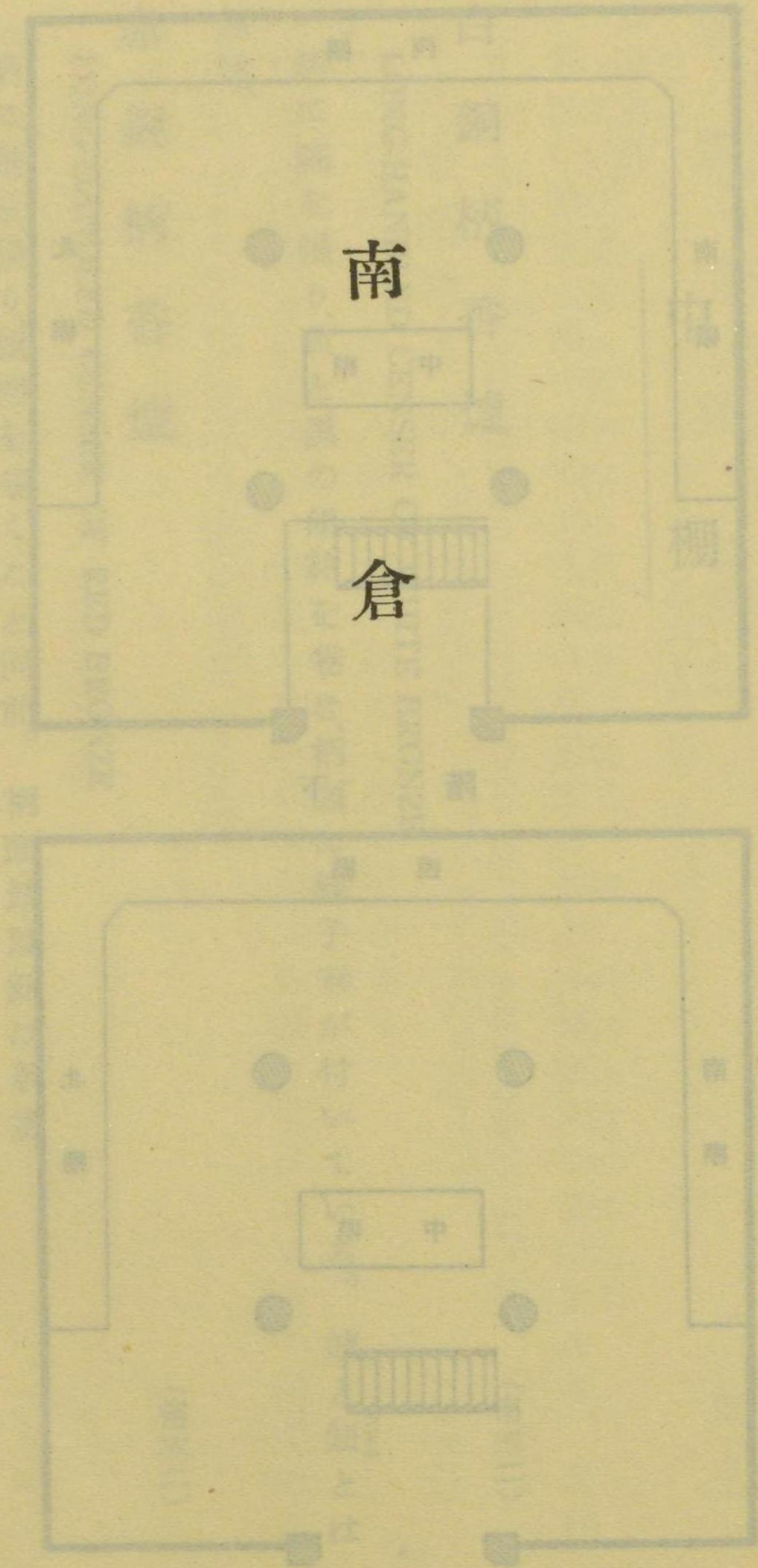
PATTERNED PAPER

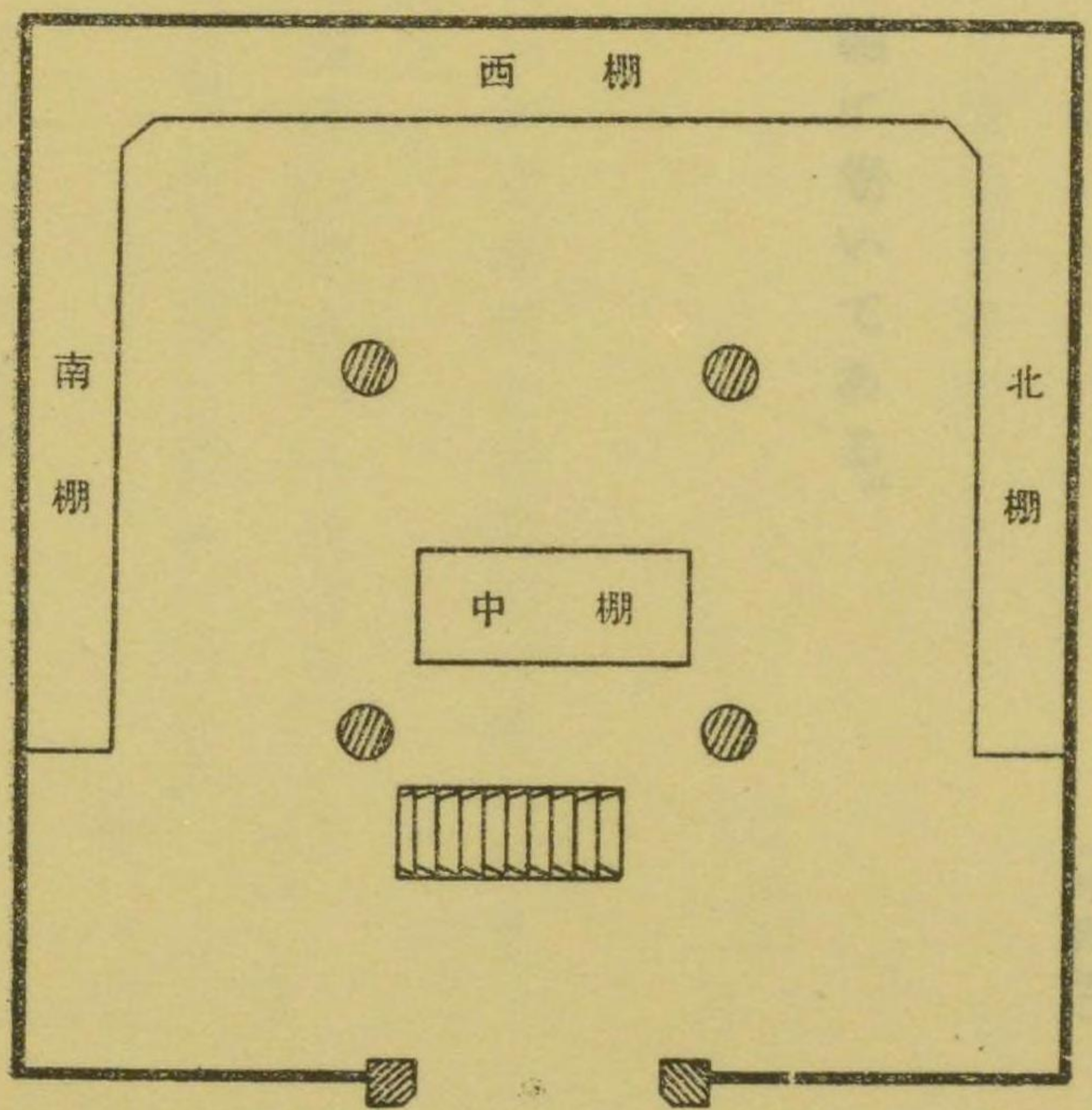
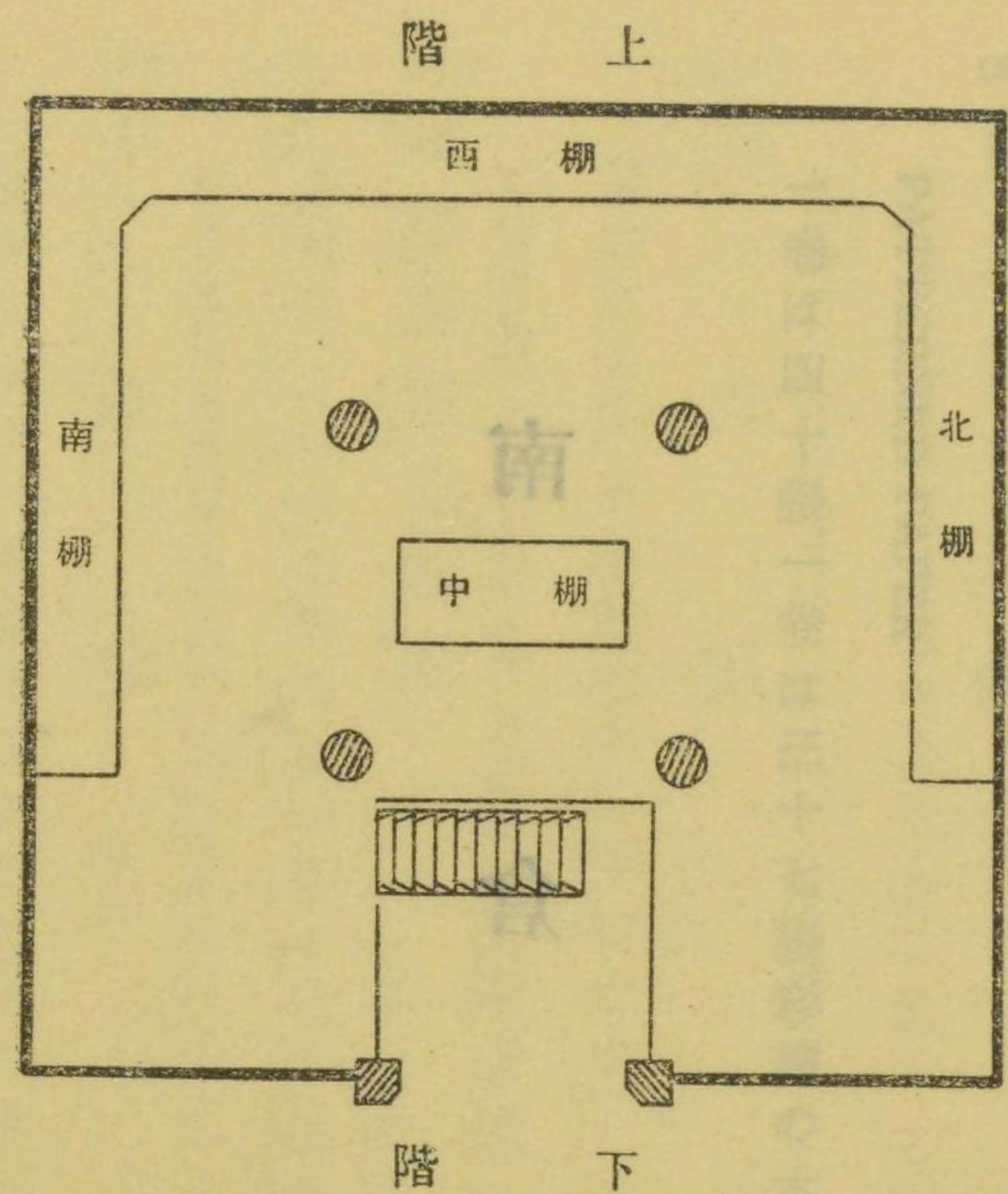
一卷は四十張、一卷は三十七張、彩繪の木軸に巻いてある。

一三八

(中四五)

南會階上





南倉階上

中棚

(601) 白銅柄香爐

LONG-HANDLED CENSER OF WHITE BRONZE

柄に錦を張り、黄と黒の組緒を巻き、柄頭に獅子形が付いている。爐と鈕つまみとは新造。

(南五二)

(602) 赤銅柄香爐

LONG-HANDLED CENSER OF RED BRONZE

柄に錦を張り、組緒を巻くこと同前。柄頭爐鈕は新造。

(南五二)

南倉階上

(603) 赤銅柄香爐

LONG-HANDLED CENSER OF RED BRONZE

(南五二)

(604) 白銅柄香爐

LONG-HANDLED CENSER OF WHITE BRONZE

(南五二)

柄頭・爐・爐鈕みな新造品。 附屬の漆箱の蓋裏に「神龜六年七月六日」の刻銘がある。

(605) 紫檀金鈿柄香爐

【圖版五〇】

(南五二)

LONG-HANDLED CENSER OF SHITAN-WOOD INLAID WITH GOLD (PL. 50)

紫檀の爐盤と柄の側面は金銀の花鳥文を嵌込み、瑠璃玉で飾つてある。 支柱は新造品。

(606) 金銀花盤

【圖版四八】

(南一八)

GILDED SILVER FLORAL PLATTER (PL. 48)

六花形で、中央に鹿形を打出し、縁に雜王金銅の垂飾をつける。 背に「東大寺花盤 重大六斤八兩及び「字字號二尺盤一面 重一百五兩四銖半」の刻銘、また表に「四斤」の墨書がある。 脚は新造。

(607) 密陀繪盆

十七枚 【圖版四九】

(南三九)

WOODEN DISHES PAINTED WITH LITHARGE (PL. 49)

白密陀の上に黄土で、山水花鳥人物を描き、裏は漆地花形文。

(608) 銀平脱八角鏡箱

(南七一)

EIGHT-LOBED MIRROR CASE DECORATED WITH SILVER HEIDATSU

八花形で、蓋表は銀平脱の鳳凰寶相華文。 銀の帖角が打つてある。

(609) 銀平脱鏡箱

(南七一)

LACQUERED MIRROR CASE DECORATED WITH SILVER HEIDATSU

外形は圓く、内側は八稜形で、底裏にも銀平脱がある。

(610) 漆皮金銀繪八角鏡箱

(南七一)

MIRROR CASE OF HIDE LACQUERED

底裏にも金銀花鳥の繪がある。

(611) 漆皮八角鏡箱

(南七一)

MIRROR CASE OF HIDE LACQUERED

(612) 金銀繪鏡箱

LACQUERED MIRROR CASE PAINTED WITH GOLD AND SILVER

一三二

(南七一)

蓋表は花鳥、その裏は山水の繪。蓋と身とが合わぬ。

(613) 金銅花形合子

二合 【圖版五〇】

(南一九)

GILT COPPER DISHES (PL. 50)

一合の身は新造品。

(614) 刻彫梧桐金銀繪花形合子

二合

(南三六)

PAULOWNIA-WOOD DISHES IN A FLORAL DESIGN WITH COVERS IN  
PIERCED WORK

一合の底に「戒壇堂」と墨書。脚は新造。一合は身新造。

(615) 同 殘 闕

(南三六)

PAULOWNIA-WOOD DISH AND COVER

蓋と身各一。身の底に「戒壇」と墨書。

(616) 朴木粉繪高杯

(南三八)

TALL DISH OF HO-WOOD

(617) 漆 瓶 龕

(南二六)

LACQUERED CASE FOR VASE

題箋があるが讀めない。瓶は佚した。

(618) 佐波理水瓶

二口 【圖版五一】

(南二五)

SAHARI EWERS (PL. 51)

一口は人面の注口。

佐波理は銅鉛錫の合金で、響銅という。

(619) 金銅水瓶

(南二四)

GILT COPPER EWER

注口は鳥首。

(620) 漆 香 盆

(南四一)

LACQUERED INCENSE TRAY

裏に「香水」と墨書し、また「圖書寮」の刻銘がある。

一三四

(621) 金 銅 剪 子

GILT COPPER SCISSORS

(南三三)

(622) 金 銀 匙

GILDED SILVER SPOON

(南四三)

柄頭の裏に「重大三兩」の刻銘がある。

(623) 佐 波 理 匙

SAHARI SPOON

(南四四)

(624) 金 銅 小 盤

GILT COPPER DISH

(南二二)

扁圓十二曲形で、内外に魚子地を打ち、花文を刻んでいる。

(625) 金 銅 六 曲 花 形 杯

GILT COPPER BOWL

(南二一)

魚子地に奏樂の圖が毛彫してある。

北 棚

(626) 花

籠

五百六十五口

(南四二)

FLOWER BASKETS

花笥、花籠とも書き、佛事に用いて花を盛る。深形と浅形とあり、「中宮文武天皇夫人宮子」齋會花笥 天平勝寶七歲七月十九日 東大寺「また」天平勝寶九歲五月二日 東大寺」と墨書のあるものがある。前者は聖武天皇母后の、後者は聖武天皇の御一周忌使用のものである。

(627) 磁

鉢

二十五口 【圖版五二】

(南 九)

POTTERY BOWLS (PL. 52)

(628) 佐 波 理 匙

三百四十五枚

(南四五)

SAHARI SPOONS

南倉階上

一三五

長形と圓形とが組になつてゐる。

(629) 佐波理皿 六百九十七枚

SAHARI DISHES

(南四六)

(630) 佐波理加盤 四百二十六口

SAHARI BOWLS

(南四七)

食器で碗を容籠いれこに重ねて盤を蓋にする。十重九重などの別がある。

(631) 庖丁 十枚

KNIVES

(南四八)

(632) 貝匙 六束

SHELL SPOONS

(南四九)

(633) 磁瓶

POTTERY VASE

(南七)

(634) 磁皿 二十九口

POTTERY PLATES AND DISHES

(南八)

底に「訓國黒万呂」「戒堂院 聖僧供養盤 天平勝寶七歳七月」東大寺」と墨書のあるものがある。

(635) 八角金銀盤 三枚

GILDED SILVER PLATTERS

(南一四)

八花形で、それ／＼「重大三斤三兩」「重大三斤四兩」「重大三斤八兩」と刻銘がある。

(636) 漆金薄繪盤 一雙

LOTUS FLOWER PEDESTALS

(南三七)

底に「香印坐」と墨書、即ち香印を焚く佛具で、極彩色の蓮花座がある。

(637) 銀提子

SILVER POT

(南一六)

白河天皇の時、麝香五兩出藏の代りに納めたもの。

(638) 銀鉢 四口

SILVER BOWLS

(南一一)

南倉階上



各「重大五斤四兩」「重大五斤六兩」「重大五斤一兩」「重大四斤七兩」と定量を刻み、座にも第一の分に「重大一斤七兩」、第二以下三口の分に「重大一斤八兩」と定量が刻まれている。なお第一の座には墨書「南鐙」。

(639) 銀

鉢

(南一二)

SILVER BOWL

刻銘「重大五斤五兩 延喜十四年十二月十一日 別當大法師智愷住時作入」。座は新造。

(640) 銀

壺

一雙 【圖版五三】

(南一三)

SILVER JARS (PL. 53)

面は魚子地に騎獵圖。もと蓋と座があつたが、蓋を佚した。一口に「東大寺銀壺 重大五十五斤 甲 蓋實并臺重大七十四斤十二兩 天平神護三年二月四日」座に「東大寺銀壺臺 重大五十二斤 蓋實并臺 重大七十斤十二兩 天平神護三年二月四日」座に「東大寺銀壺臺 重大十斤八兩 乙」の刻銘がある。

西 棚

(641) 長八角銀盤

SILVER PLATTER

(南一五)

長八花形、花形を彫り付く。底裏に「重大三斤二兩」の刻文がある。

(642) 漆

鉢

六口

(南一〇)

LACQUERED BOWLS

(643) 金銅八曲長杯

三口

(南二〇)

GILT COPPER DISHES

(644) 金銅合子

GILT COPPER GOSU

(南二八)

南倉階上

(645) 赤銅合子 二合

SHAKUDO GOSU, REDDISH BRONZE

(646) 赤銅合子

SHAKUDO GOSU, REDDISH BRONZE

塔形の蓋のある塔鏡。次の(647)と(648)も同じ形式である。

(647) 黄銅合子 【圖版五一】

ODO GOSU, YELLOWISH BRONZE (PL. 51)

(648) 佐波理合子

SAHARI GOSU

(649) 銀合子 二合

SILVER GOSU

一合蓋裏に「六兩三分小一合六兩二分小」と墨書がある。身はいずれも新造品である。

(650) 金銅六角盤

GILT COPPER DISH

「東小塔」の墨書がある。

(651) 佐波理鏡

SAHARI BOWL

(652) 三鈷 二枚

THREE-PRONGED VAJRAS

三鈷金剛杵で一枚は白銅、一枚は鐵である。

(653) 柿柄麈尾

SHUBI WITH PERSIMMON-WOOD HANDLE

麈は大鹿のことで、群鹿が麈の尾の動きを見て往くということから、清談をなす者や佛家が、その尾を柄にすげ、これを執つて人を導く標とした。本品は柄に牙莊を施してあるが、脱落があり、毫毛も大半失せている。

(654) 漆 塵尾箱

LACQUERED BOX FOR SHUBI

前號塵尾の箱。

(655) 漆 柄 塵尾

SHUBI WITH LACQUERED HANDLE

葡萄唐草の牙莊剝落がある。毫全く存しない。

(656) 磁 塔 殘 闕 九枚

SMALL POTTERY PAGODA

中に銅柱をとおしている。

(657) 白 石 塔 殘 闕 二枚

WHITE STONE PAGODA

大理石の笠と基壇の二枚。柱のとある小圓孔があいている。

(658) 白 銅 頭 錫 杖

SHAKUJO PRIEST'S STAFF OF WHITE BRONZE

柄は鐵で丸形。次號も同様である。

(659) 白 銅 頭 錫 杖

SHAKUJO OF WHITE BRONZE

(660) 鐵 錫 杖

SHAKUJO OF IRON

方形の柄。

(661) 金 銅 大 合 子 四合

GILT COPPER GOSU

塔形鏡で、一合左二二合左四「左十四」一合左十五の刻文がある。一合蓋は新造。

(662) 黃 楊 木 佛 座

WOODEN STAND

金銅雜玉で飾る。殘材を集めての補造である。

南倉階上

一四三

一四二

(南五〇)

(南五〇)

(南三四)

(南三五)

(南六四)

(南六四)

(南六四)

(南二七)

(南六三)

(663) 金銅柄麈尾

SHUBI WITH GILT COPPER HANDLE

金銅の柄には魚子地に花形を線彫してある。毫はない。

(664) 瑇瑁柄麈尾

SHUBI WITH TORTOISE-SHELL HANDLE

柄頭は紫檀瑇瑁剝落多く、毫は僅かに残っている。

(665) 斑犀竹形如意

NYOI, ANURUDHA OF SPOTTED RHINOCEROS-HORN

柄は竹根形「東大寺」の刻銘がある。次號の箱を具する。

(666) 素木如意箱

BOX FOR NYOI

「東大寺」の刻銘と「福安立奉如意」の墨書がある。

(667) 鯨鬚金銀繪如意

NYOI OF WHALE-FINS

金銀泥で雲形が書いてある。次號の箱を具する。

(668) 黒柿蘇芳染金銀繪如意箱

BOX FOR NYOI OF BLACK PERSIMMON-WOOD STAINED WITH SAPAN-WOOD JUICE

金銀繪の花文、内面は金繪雲形、鉸具は金銅、床脚八。

(669) 斑犀鈿莊如意

NYOI OF MOTTLED RHINOCEROS-HORN

黄金玉石の莊、紺玉の柄頭。柄に「東大寺」の刻銘がある。

(670) 漆如意箱

LACQUERED BOX FOR NYOI

「東大寺」と刻銘。前號如意の箱である。

(671) 瑇瑁竹形如意

NYOI OF TORTOISE-SHELL IN BAMBOO-SHAPE

柄は竹幹にかたどり、節際から細條を出す。柄頭を闕失する。

(672) 犀角黄金鈿莊如意

NYOI OF RHINOCEROS-HORN

柄頭は白犀七葉形、黄金珠玉瑠璃刻牙で飾る。柄は紅牙と緑牙の撥鏤、木畫、黄金の界。

一四六

(南五一)

(673) 犀角銀繪如意

NYOI OF RHINOCEROS-HORN

白犀に銀繪の花鳥、柄は紫檀、銀繪がある。

(南五一)

(674) 瑇瑁如意

一枚

NYOI OF TORTOISE-SHELL

大きい方の題箋に「玳瑁如意一枚 自上所給下」とある。

(南五一)

(675) 紫檀小架

SMALL FRAME OF SHITAN-WOOD

牙で飾つた鳥居形の小架で、両面に一双ずつ牙の鈎がある。床は瑇瑁木畫、牙脚がついている。

(南五四)

(676) 琥珀誦數

AMBER ROSARIES

十三條

玉は百二枚乃至百二十四枚、大部分は水精を併用する。一條は眞珠、水精の曲玉、瑪瑙管玉で飾り、龜甲形黒漆箱に納め、箱の題箋に「琥珀誦數」<sup>(數)</sup>一條<sup>(會前)</sup>□□獻物とある。一條の題箋に「大會後物 人々獻物」とある。一條に木牌があつて「楠夫人奉」の墨書があり、附屬の柳箱の題箋に「琥珀誦數 一條 會前獻物」箱縁に「東大寺會前」の墨書がある。

(南五五)

(677) 雜玉誦數

ROSARY

水精二十九枚、琥珀三枚、瑠璃十四枚、題箋に「不知獻者 會日」とある。

(南五六)

(678) 水晶誦數

CRYSTAL ROSARIES

五條

四條は各百八枚、一條は殘闕。

(南五七)

(679) 菩提子 誦數

BODAIJU ROSARY, BEADS OF FICUS RELIGIOSA NUTS

百八枚、水精の莊。菩提子ではない。

一四八

(南五八)

(680) 誦數 殘闕 五條

ROSARIES

一條は菩提子、一條は琥珀、一條は蓮實。

(南五九)

(681) 柳 箱

WICKER BOX

(683) に至る箱は以上の誦數を納める。

(南六〇)

(682) 赤漆柳箱

LACQUERED WICKER BOX

(南六一)

(683) 漆花形箱 十口

LACQUERED HIDE BOXES

(南六二)

(684) 瑇瑁杖 二枚

TORTOISE-SHELL WALKING STICK

一枚は丁字形八角造、籐と樺で纏き、牙で飾る。一枚は丁字形竹形造、瑇瑁の蔓を巻く。石突は紺牙撥鏤。

(南六五)

(685) 假斑竹杖

BAMBOO WALKING STICK

籐と樺で纏き、頭と尾は水精。

(南六五)

(686) 椿杖 二枚

CAMELLIA WOOD WALKING STICKS

長さ五尺三寸二分、金銀彩繪で皮はだを畫いた皮椿の卯杖である。中國から傳わつて正月初卯に宮中で辟邪の杖を進める儀があつたが、これに用いたもの。寶庫に傳わる三十足机に「卯日御杖机 天平寶字二年正月」とある墨書から、この杖の使用時が推されるであらう。

(南六五)

(687) 衲のうの 御ご 禮らい 履り

CEREMONIAL SHOES

一五〇

(南六六)

御禮服の上に衲の御袈裟を召された時の御履で、緋皮造り、銀の花形に大小の眞珠を嵌め、黄金の押縫がある。聖武天皇の御召用と傳えるが、詳かでない。「第五横」と題箋のある赤漆箱が添っている。

(688) 赤漆 觀木胡床

CHAIR OF KEYAKI-WOOD

(南六七)

殘材を集めて補造したもの。

(689) 屏風 殘闕 二扇

SCREEN PANELS

(南六九)

一扇は鳥毛篆書屏風「唯行不易」の文を篆書と楷書と二様に現わす。<sup>(119)</sup>の屏風と同斷。一扇は鳥毛帖成文書屏風で「正直爲心神明所祐禍福無門唯人所召」とある。

(690) 藺箱

RUSH BOX

(南七三)

棕欄を交じえる。

南 棚

(691) 赤漆八角床

LACQUERED OCTAGONAL STAND

(南六八)

(692) 鳥獸花背八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR

(南七〇ノ一三)

(693) 十二支八卦背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR

(南七〇ノ一三)

徑六〇(纏約二尺)の大鏡。附屬の六角楯箱は底に横木を渡し鐵の環を着けて

南倉階上

一五一

釣るのに便にしてある。

(694) 山水八卦背八角鏡

【圖版五四】

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR (PL. 54)

(南七〇ノ二)

金銀の背、山水人物鳥獸八卦を、また双鉤體で次の詩を現わしている。「隻影嗟  
爲客、孤鳴復幾春、初成昭瞻鏡、遙憶畫眉人、舞鳳歸林近、盤龍渡海新、絨封待還日、披拂  
鑒情親」。次號の箱が添う。

(695) 八角高麗錦鏡箱

MIRROR BOX COVERED WITH BROCADE

(696) 平螺鈿背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR

(南七〇ノ二)

(697) 鳥獸花背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR

(南七〇ノ三)

漆皮箱が添っている。

(698) 山水人物鳥獸背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR

(南七〇ノ四)

(699) 漆金繪鏡箱

LACQUERED MIRROR BOX

前號の鏡の箱。

(700) 平螺鈿背圓鏡

【圖版五五】

ROUND BRONZE MIRROR (PL. 55)

(南七〇ノ五)

獅子、犀の圖がある。次號の箱が附屬する。

(701) 銀平脫鏡箱

LACQUERED MIRROR BOX

(702) 黄金瑠璃鈿背十二稜鏡

TWELVE-POINTED MIRROR

(南七〇ノ五)

表は白銀。瑠璃鈿はいわゆる七寶である。相當反りがある。漆皮箱が添う。



(703) 鳥獸葡萄背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR

一五四

(南七〇ノ七)

白銅鑄上りは佳良。漆皮箱が添っている。

(704) 鳥獸葡萄背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR

(南七〇ノ八)

漆皮箱が添っている。

(705) 鳥獸葡萄背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR

(南七〇ノ九)

白銅で精良。仔獅子が親獅子に戯れている。

(706) 鳥獸葡萄背方鏡

SQUARE BRONZE MIRROR

(南七〇ノ一〇)

白銅鑄上り佳良、反りがある。方形の漆皮箱が添っている。

(707) 漫背圓鏡

ROUND IRON MIRROR

(南七〇ノ一一)

鐵、反りがある。次の箱が添っている。

(708) 漆金銀繪鏡箱

LACQUERED MIRROR BOX

(709) 漫背圓鏡 九面

ROUND BRONZE MIRRORS

(南七〇ノ一四―一二)

(710) 漫背圓鏡 八面

ROUND BRONZE MIRRORS

(南七〇ノ二三―三〇)

鈕に木綿の緒を着けたものがある。

(711) 葉文背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR

(南七〇ノ三一)

「長相思、毋相忘、常貴官、樂未央」の銘文がある。

(712) 鳥獸葡萄背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR

(南七〇ノ三二)

(713) 花鳥背八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR

一五六

(南七〇ノ三三)

(714) 仙人花蟲背八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRRORS

(南七〇ノ三四、三五)

(715) 花文背六角鏡

SIX-LOBED BRONZE MIRROR

(南七〇ノ三七)

(716) 花蟲背八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR

(南七〇ノ三八)

棚外

(717) 篋後殘闕

KUGO OR KUDARA KOTO (KOREAN HARPS)

(南七三)

和名百濟琴。二張の殘闕である。複原模造が附いている。

棚上段

(718) 伎樂面

GIGAKU MASKS (PL. 56) 百六十四口【圖版五六】

(南一)

木彫百三十一面、乾漆(布を心に漆で固める手法)三十三面。文字のあるものを左に挙げる。(乾は乾漆の略)

番號	文	字	番號	文	字
一	婆羅門		五十七	隨群	
二	師子		八	胡論	
三	□(隨)群		九	太孤兒	上野
四	隨群		一〇	大孤	讚岐

南倉階上

一五七

一一 笑□少女」讚岐  
 一二 讚岐  
 一三 讚□  
 一四 周防  
 一五 相模國  
 一六 東大寺 財福師作」夷  
 一七、一八 基永師作  
 一九 大日師作  
 二〇、二一 捨目師作  
 二二 延均師  
 二四 將李魚成作」前一東大寺 天平勝寶四年四月九日  
 二五 將李魚成作」前一□東大寺 天平勝寶四年四月九日  
 二六 將李魚成」前一」東大寺 天平勝寶四年四月九日  
 二七 將李魚成作」前一」東大寺 天平勝寶四年四月九日  
 二八 作大田和磨 功七人□

二九 作大田倭磨 十日作了  
 三〇 九年七月 作大田和万呂 功七人」  
 三一 作大田倭磨 功七人 九年五月  
 三二 作□坂福貴 功九人  
 三三 作□功八人□  
 三四 後一」天平勝寶四年四月九日  
 三五 前一」東大寺□ 天平勝寶□  
 三六 丙」天平勝寶四年四月九日  
 三七 第五」基永師作」後一」東大寺 天平勝寶□  
 三八 後一」東大寺  
 三九 左」東大寺  
 四〇 左」東大寺□  
 四二 東大寺  
 四三 作將李」東大寺 □ 天平勝寶四年四月九日  
 四四 延均師」後二」東大寺 天平勝寶四年四月九日

四五 相國  
 四八 □應□  
 四九 隨群  
 五〇 力士  
 五七 假 延均師」東大寺 □  
 六二 假 (延) □均師」東大寺  
 六八 假 隨群 (力)  
 七九 假 爲首苗史(力) □  
 八〇 假 太□  
 八二 假 東大寺 □  
 八六 假 (延均) □□師」東大寺

八九 假 東大寺  
 九二 假 延影  
 九七 假 秋田  
 一〇八 假 速 (周) □防  
 一一七 假 □防  
 一二四 假 周防  
 一二九 假 種」一塙」六□  
 一 乾 相李魚成作  
 二 乾 東大寺  
 二四 乾 相李魚成作」東大寺 天平勝寶四年四月九日

南倉階下

一六〇

中棚

(719) 牙 横 笛

IVORY FLUTE

(南一一一)

(722) の牙尺八と對をなすものである。

(720) 斑 竹 横 笛

BAMBOO FLUTE

(南一一一)

〔東大寺〕の刻銘がある。

(721) 吳 竹 横 笛

BAMBOO FLUTE

(南一一一)

(722) 牙 尺 八

IVORY SHAKUHACHI

(南一一〇)

(723) 吳 竹 尺 八

BAMBOO SHAKUHACHI

(南一一〇)

一管〔東大寺〕の銘がある。

(724) 吳 竹 笙

BAMBOO SHO, MUSICAL INSTRUMENT, A KIND OF SYRINX

(南一〇九)

〔東大寺〕の刻銘がある。

(725) 假 斑 竹 竽 笙

BAMBOO SHO AND WU, BOTH MUSICAL INSTRUMENTS

(南一〇八、一〇九)

竽、笙とも壺と膝ひざは銀平脱の花鳥人物畫。〔東大寺〕の刻銘がある。

(726) 吳 竹 竽

BAMBOO WU

(南一〇八)

壺は銀平脱の寶相華迦陵頻伽等膝も銀平脱の雲形等。刻銘〔東大寺〕。

南倉階下

一六一

(727) 螺 鈿 楓 琵琶

【圖版五七】

BIWA OF MAPLE WOOD INLAID WITH MOTHER-OF-PEARL (PL. 57)

(南一〇一)

一六二

楓材、蘇芳染螺鈿の槽、捍撥に山の朝景色を背景に象に騎る胡人が、童子と鼓樂を娛しむ圖がある。槽に「東大寺」と刻銘。

(728) 木 畫 紫 檀 琵琶

BIWA OF SHITAN-WOOD WITH MOKUGA INLAY

(南一〇一)

槽に木畫で纓絡尾長鳥を現わし、捍撥に騎馬で狩獵し獲物を運び、調理宴樂する圖がある。

(729) 木 畫 紫 檀 琵琶

BIWA OF SHITAN-WOOD WITH MOKUGA INLAY

(南一〇一)

木畫小花文の槽。捍撥に山水古人の畫があるが、くろすんで判りにくい。

(730) 紫 檀 琵琶

BIWA OF SHITAN-WOOD

(南一〇一)

捍撥に猛禽が兎を狙っている圖がある。

(731) 紫 檀 金 銀 繪 琵琶

BIWA PLECTRUM OF SHITAN-WOOD DECORATED WITH GOLD AND SILVER

(南一〇一)

(732) 檜 和 琴

KOTO OF JAPANESE STYLE OF HINOKI-WOOD

(南九八)

六絃面は金銀繪、頭部は紫檀螺鈿で飾り、金薄地山水繪の上に瑠璃を押し、黄金の界線を施す。磯(いそ)側面は緑地と紅地を交互に配し山水鳥獸を描いた上に瑠璃を押し、木畫で界線を作っている。「東大寺」の木畫銘。

(733) 磁 鼓 筒

CERAMIC DRUM BODY (PL. 58)

(南一一四)

綠白・黄褐の三彩釉の陶製。細腰鼓。

(734) 漆 鼓 筒

LACQUERED DRUM BODIES

二十二口

(南一一五)

腰鼓。木地黒漆塗、一口はその上に彩繪を施したものの。

南倉階下

一六三

(735) 鼓皮殘闕

DRUM SKINS

一六四

(南一一六)

彩繪花文があるもの、蘇芳染麻の締緒があるもの、鐵輪ばかりのものがある。

(736) 新羅琴殘闕

SHIRAGI KOTO, A KOREAN HARP

(南一〇〇)

殘絃僅かに遺る。「東大寺」の刻銘がある。

(737) 桐木琴殘闕

PAULOWNIA KOTO

(南九九)

七絃樂器で、頭部の裏に轉手七箇をもつて尾形のもの(780)の内(カ)が着く。

(738) 木笏

WOODEN SHAKU

(南一二四)

吳樂のもので「東大寺前」(カ)天平勝寶□「文人」の墨書がある。

(739) 桑木阮咸

MULBERRY-WOOD GENKAN

雜樂に用いたもので、捍撥は花形の中に松下圍碁の圖が描いてあり、槽に「東大寺」の刻銘がある。袋は深緑絁で「東大寺 納雜樂阮琴袋」と墨書。

(740) 武王大刀

DANCE SWORD

(南一一九)

唐樂のもので、刃二尺二寸一分(六七纏)黒柿の把、漆鞘に密陀繪、鉸具は鐵。刀身に「武王」「東大寺」「天平勝寶四年四月九日」の刻銘。

(741) 破陣樂大刀

DANCE SWORDS

(南一一九)

唐樂のもので、一口は刃長二尺二寸一分(六七纏)黒柿の把、一口は二尺一寸九分(六六・三纏)柿の把。ともに漆鞘に密陀繪、鐵作り。「破陣樂」「東大寺」「天平勝寶四年四月九日」の刻銘がある。白絁の大刀袋二口とも「東大寺 破陣樂大刀 天平勝寶四年四月九日」の墨書。

(742) 婆理大刀

DANCE SWORD

(南一二三)

度羅樂のもので、又は木で白密陀塗、長一尺八寸一分(五五纏)。牟久木の把、漆鞘に密陀をかけ、鉸具も木作。「東大寺」「婆理」の刻銘がある。白絶の袋に「波理太刀」と墨書。

(743) 樂

梓

一枚

(南一一七)

DANCE SPEARS

一枚は鐵刃で枝があり、木の柄の上端に環がある。一枚は木刃、三叉、漆塗柄は闕失。

(744) 朴木金銀繪琴箱

KOTO BOX OF MAGNOLIA HYPOLEUCA

(南一〇七)

蓋の甲と身の一侧は新造。

(745) 鐵方磬殘闕

IRON KEI

(南一一三)

方磬は豎長の鐵板十數枚を一具として、架に懸けて使用する打樂器。いま九枚を遺こす。

(746) 甘竹

律

二口

(南一一二)

BAMBOO RITSU

簫である。二口分の殘闕。一口は舊物七管、一口は九管、ともに楸木の帶。いずれか一口は獻物帳の「甘竹簫一口、楸木帶」に當るものである。

北棚

(747) 子目利箒

NE-NO-HI BROOMS (PL. 59)

二枚

【圖版五九】

(南七五)

目利は著の借字であろう。紫皮の把、一枚は金絲で、一枚は雜玉を貫いたもので其の上を纏き、箒の先は雜玉で飾つてあるので玉箒という。(750)の鋤と對になる。

(748) 粉地彩繪倚几 二枚 【圖版五九】 (南七六)

BROOMS STANDS (PL. 59)

(749) 綠紗几覆及帶

SILK COVERS AND SASHES

几覆に「子日目利箒机覆 天平寶字二年正月」の墨書がある。また帶に「子日目利箒机覆帶 天平寶字二年正月」の墨書がある。

(750) 子日手辛鋤

二口

NE-NO-HI PLOUGHS

(南七九)

刃は鐵漆塗、金銀の花弁文柄は粉地彩繪の木理、東大寺子日獻 天平寶字二年正月」の墨書がある。

周漢の制に正月、天子籍田を耕し、皇后蠶室を掃つて蠶神を祭る儀式があるが、これが我國にも傳わつて、正月初子に行われた。この鋤と玉箒は、孝謙天皇の天平寶字二年(七五八)正月、初子の三日に用いられたもの、萬葉集の「初春の初子の今日」の玉箒手に執るからにゆらぐ玉の緒」の一首は、この時大伴家持が詠んだものである。

である。

(751) 彩繪佛像幡

BUDDHIST BANNER OF SILK

(南一五五)

黃纈。身は四坪、坪ごとに菩薩像一體ずつを書く。

(752) 赤漆密陀繪雲兔櫃

LACQUERED CHEST

(南一七〇)

樹木・花卉・兎・孔雀・雲等が畫かれている。

(753) 赤漆櫃

LACQUERED CHEST

(南一七〇)

(754) 榻足机

STANDS

七脚

(南一七三)

(755) 檜墨繪花鳥櫃

CHEST OF HINOKI-WOOD

(南一七二)

白木の側面に墨畫。内面は墨塗である。

南倉階下

一六九

一六八



西 棚

(756) 檜彩繪花鳥櫃  
CHEST OF HINOKI-WOOD (南一七一)

「公驗辛櫃第一、勅書封戸庄園寺務修造任符奴婢温室の刻銘がある。

(757) 漆花形皿 二十九枚  
LACQUERED FLOWER-SHAPED TABLES (南四〇)

五枚、表は朱金覆輪、裏は黒漆塗に彩繪があり四脚。他は黒漆塗で四脚。

(758) 漆小櫃  
LACQUERED SMALL CHEST (南一六九)

(759) 鑰子 四十三具  
PADLOCKS (南一六七)

(760) 漆密陀繪雲鳥草櫃  
LACQUERED CHEST (南一六八)

(761) 漆密陀繪龍虎櫃  
LACQUERED CHEST (南一六八)

蓋表に雲と龍、側面に蔓草、怪獸、怪鳥を描く。外は黒漆塗、内は赤漆塗。

(南八七—九二)

(762) 工匠具 二十一口

ARTISAN'S TOOLS

鉋五、錯三、刀子二、鑽一、打鑽六、多賀禰四。

(南八四)

(763) 針  
LARGE NEEDLES

銀針、鐵針各一雙。別に銀針、銅針、鐵針各一隻、三隻とも題箋に長さ、重さ及び糸の長さを注記し、鐵針には二十四纏の赤糸が着いている。

(南八五)

(764) 緑麻紙針  
GREEN HEMP-PAPER FOR WRAPPING NEEDLES

南倉階下

「緑淡搓糸一條、重二兩二分大、鐵針一隻の墨書がある。前號の針は實用品とは思えない。乞巧奠たなほたまつりに金針、銀針を楸木じきぎの葉に挿み、また色紙にさして織女星に供えて巧たくみを祈るといふことが江家次第に見えているが、あるいはこれと關係があるものか。

(765) 金 銀 箸 一雙

GILDED SILVER STICKS

(南八六)

(766) 和 同 開 珍 十五枚

JAPANESE COPPER COINS

(南九二)

(737) 神 功 開 寶

JAPANESE COPPER COIN

(南九四)

(768) 藺 筵 十帖

RUSH MATTING

(南一五一)

緑糸の縁裏に紐を着けたたとえば床木にくより着けるに適する。

(769) 刻 彫 蓮花佛座 二枚

CARVED PEDESTALS

(南一六一)

(770) 漆 佛 龕 扉

ZUSHI DOOR

(南一五九)

佛像六軀ずつ十三段に貼つたもの、いま三十五軀を存する。表は天部像。

(771) 漆 佛 龕 扉 四扇

ZUSHI DOORS, CABINET DOORS

(南一五八)

表は金銀泥で菩薩などを描き、内側に多數の金銅佛像を貼る。

(772) 佛 像 型 三枚 【圖版六〇】

MOULDS FOR BUDDHISTIC FIGURES (PL. 60)

(南一五三)

銅製陽刻の如來像で果して型か詳かでない。

(773) 漆 皮 箱 殘 闕 三隻

LACQUERED HIDE BOXES

(南一七五)

(774) 開眼縷

“EYE OPENING” CEREMONY CORD

縷色の組紐で、題箋に「開眼縷一條 重一斤二兩大 天平勝寶四年四月九日」とある。東大寺續要錄、東大寺供養記に大佛開眼の時、墨を眼に點する筆に十二條の索を繫ぎ、參會の諸人に執らせ、共に結縁開眼するの意を表わしたと傳える。

(南八二)

一七四

(775) 縷

SILK CORDS

八條

(南八二)

白縷大小二條、赤縷一條、黃縷一條、雜色縷四條。<sup>(763)</sup>の鐵針一隻は、この赤縷に附屬。

(776) 綺

KAMBATA-NO-O, A NARROW STRIP OF SILK

緒

(南八三)

幅約八糎、平打ち

(777) 古

裂類  
OLD TEXTILE FABRICS

(778) 藁

藁 褥 心

三束

(南一五二)

WADDING FOR RUSH MATS

(779) 墨

畫佛像

【圖版六一】

(南一五四)

DRAWING OF BODHISATTVA (PL. 61)

麻布に飛雲に乗る跏坐の菩薩像を畫く。

(780) 樂器

殘闕

(南一七七)

FRAGMENTS OF MUSICAL INSTRUMENTS

七絃樂器殘闕<sup>(737)</sup>に附屬、琵琶轉手、新羅琴、楡形琴、龍角、箏、龍角と龍舌、其の他。

南 棚

(781) 雜玉

幡殘闕

二枚

(南一五七)

南倉階下

一七五

種々の色の瑠璃玉を針線に通して編んだもので、形からは花籠かと疑われる。

(782) 金 銅 鈴 九口 (南一六四)

GILT COPPER BELLS

(783) 鈴 百三十五口 (南一六四)

COPPER BELLS

鳥草雲山水の毛彫があるものがある。容器の底裏に「承和四年十月十日、勘定鈴數百口、預諸天連、昨万呂」の墨書がある。

(784) 金 銅 杏葉裁文 十連 (南一六四)

GILT COPPER PENDANTS

鈴鐸で飾り、瑠璃玉を嵌めたもの、磬形の鎖を着けたものがある。

(785) 金 銅 杏葉裁文 (南一六四)

GILT COPPER PENDANTS

硬玉碧玉・瑪瑙の曲玉で飾つてある。

(786) 金 銅 幡 四條 (南一五六)

GILT COPPER BANNERS (PL. 62)

頭部は花形、身部は四分し、葛形・龜甲形・木葉形・鳥雲形の裁文、毛彫を施し蝶番で連ね、鈴と花形で飾つている。

(787) 金 銅 枚幡鎖鐸 十口 (南一六四)

GILT BRONZE CHINTAKU, CYLINDRICAL BELLS (PL. 63)

圓筒形で舌に花形の飾を着く。頂部に「一」「二」等の數字が刻まれ、九口に「東大寺枚幡鎖鐸 天平勝寶九歲五月二日」の刻銘、一口に同墨書銘がある。この日は聖武天皇御一周忌に相當する。

(788) 金 銅 鎖 鐸 (南一六四)

GILT BRONZE CHINTAKU

(789) 金 銅 鎖 鐸 八口 (南一六四)

GILT BRONZE CHINTAKU (PL. 63)

圓味を帯びた菱筒形。袈裟襷文の界、乳がある。舌の飾は鈴を着けた花形。